



特定非営利活動法人 鳥の劇場

〒689-0405 鳥取県鳥取市鹿野町鹿野 1812-1

電話・ファックス 0857-84-3268

電子メール info@birdtheatre.org

ウェブサイト www.birdtheatre.org

特定非営利活動法人 鳥の劇場

2018年度 活動報告書

100年先を考えよう、
100年前を思い出そう。
よき思いが未来を作る。





04	ご挨拶
05	活動報告1 年間プログラム
27	活動報告2 鳥の演劇祭11
34	活動報告3 じゆう劇場
36	活動報告4 鳥の劇場以外での上演
37	活動報告5 トリジユク
40	活動報告6 アウトリーチ活動
42	活動報告7 その他の活動
43	報道資料
50	お客様の声
52	[資料1]鳥の劇場2018年度プログラム 観客アンケート集計結果
56	[資料2]鳥の劇場2018年度収支決算

「100年先を考えよう、100年前を思い出そう。よき思いが未来を作る。」というテーマのもと、2018年度の活動を行いました。100年先の社会がどうい社会になっているか本当にわかりません。20年後だってさっぱりわからない。国際関係や秩序も流動化し、経済の状況も大きく変貌しています。コミュニティーの中の小さい生活までもが、そういう巨大な流れに巻き込まれています。

先が見えないからこそ、過去から学ぼう、想像をふくらませよう、本当に大事なことは何かを考えよう、100年先をみすえて未来のために種まきをしよう、そういうことを思いながら、2018年度事業を行いました。



特定非営利活動法人鳥の劇場
代表理事 中島諒人

我々の事業に関わってくれた人が、本年度実数で約1万人(アウトリーチを除く)。現代演劇の創作をメインエンジンに、そこで培われたノウハウを生かしながら、教育、障害のある人との活動、地域振興、観光など多岐にわたる活動の中で、多くの人に関わることができました。

「関係人口」という言葉が最近よく言われます。我々の活動の目的を端的に言えば、「演劇関係人口」を増やすことかもしれないと考えています。

2018年度は「創る」「いっしょにやる」「招く」「試みる」「若手演劇人の成長サポート」の5プログラムを実施しました。

創るプログラム

『イワンのばか』
『剣を鍛える話』

三島由紀夫「近代能楽集」より
4作まとめて上演!

『葵上』『班女』『熊野』『綾の鼓』

試みるプログラム

高校演劇もっと盛り上げ事業 つくる高校生

◎前期:ミュージカル『極東ラブストーリー』を
舞踏家・目黒大路さんとつくる。
そして、韓国と「鳥の演劇祭11」にて上演
韓国の青少年劇団「コドゥンオ」との交流

◎後期:発表公演『マクベス』
高校生といっしょに名作戯曲を読む
劇場で働く人たち

招くプログラム

音楽ライブ『Life is Beautiful』

いっしょにやる プログラム

上演ともっと深く出会うための戯曲の講座

『イワンのばか』関連企画 戯曲講座①
トルストイの寓話「人は何で生きるか」を読んで、
ちょっと演じる。

『剣を鍛える話』関連企画 戯曲講座②
鲁迅を読む。

『三島由紀夫4作品上演』関連企画 戯曲講座③
三島由紀夫「近代能楽集」『葵上』を読んでみる。
ちょっと演じる。

子どものための小鳥の学校

発表公演

あなたは本当の人間ですか?ようこそ鬼物語へ
『人間×鬼×偏見=?』

若手演劇人の 成長サポート

若手演劇人の作品向上、社会との
関係づくり支援事業

◎前期:滞在制作とリーディング上演
『呉將軍の足の爪』

◎後期:滞在制作と上演『呉將軍の足の爪』、
俳優のための研修

【後援】鳥取県 鳥取市 鳥取県教育委員会 鳥取市教育委員会 NPO法人いんしゅう鹿野まちづくり協議会
鳥取大学地域学部附属芸術文化センター 新日本海新聞社 株式会社ふるさと鹿野

【助成】文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会
公益財団法人ごうぎん鳥取文化振興財団

イワンのばか

【演出ノートより】

毎年、この大型連休(ゴールデンウィークとは言わなくなりましたね)の時期は、親子で楽しめる上演をやっています。今回は、昨年初演した『イワンのばか』を取り上げます。

「民話」として書かれたテキストです。ロシアの民話を下敷きに、誰もがわかり、心を動かし、考えることができるものとして、1885年に創作された「民話」です。お金による人の支配、暴力や戦争による人の支配、国家による人の支配、「支配」がテーマのお話かなと、私は思っています。

一般のお客さまへの公開に先駆けて、小学生に観てもらいました。時間の都合で前半しか見られなかったのですが、小4の男の子が「普通の人、自分のことだけを考えるのだけど、イワンは周りの人のことばかりを考えていて、それでばかと言われる」と感想を言ってくれました。この芝居における「ばか」の意味を見事に喝破してくれて、驚き勇気付けられました。みなさんの感想もお聞かせください。

(演出家/鳥の劇場芸術監督 中島諒人)



- 原作/L.トルストイ
- 台本/永山智行(劇団こぶく劇場)
- 演出/中島諒人
- 出演/イワン:中川玲奈 セミョン、小悪魔10431号:中垣直久 タラス、カラス:高橋等 マラーニャ:後藤詩織 老悪魔、ばあちゃん馬:齊藤頼陽 イワン国王妃、タラスの妻、小悪魔35903号、カラス:村上里美 イワンの父親:赤羽三郎 イワン国大臣、タラカン国大統領、セミョンの妻、小悪魔27062号:大川潤子 イワンの母親、ばあちゃん馬、じいちゃんヤギ:藤岡千夏 小鳥、ブタ:安田菜耶 ニワトリ:浜田連珠 じいちゃんヤギ、ブタ、打楽器演奏:國石百加
- スタッフ/舞台美術:カミイケタケヤ 衣装デザイン・製作:安田菜耶 大道具製作:赤羽三郎 作曲:武中淳彦 編曲:原伸弘(オハラ企画)・松本智彦 照明:生田正 音響:原伸弘(オハラ企画) 舞台監督:岩崎健一郎 舞台監督助手:吉田昌悟(オハラ企画) 英語翻訳:澤田晶子 英語字幕・字幕操作:増川智子 制作:鳥の劇場



- 協力/鹿野町総合支所 鹿野町中央公民館 鹿野町民音楽祭 実行委員会 株式会社サラバル鹿野 オハラ企画 天然酵母パンnichi suncl cafeRuca 鳥のボランティア
- 実施回数/上演:計10回 アフタートーク:計6回 食のイベント:計2回

- 会場/鳥の劇場
- 日程/4月26日(木)・27日(金)・28日(土)・29日(日祝)・5月1日(火)・2日(水)・3日(木祝)・4日(金祝)・5日(土祝)・6日(日)
- 上演回数/計10回(一般:8回)
- 来場者数/計1,323人(一般:1,137人、学校招待:186人)(アフタートーク・イベント含む延べ人数:1,668人)

- 【公演後アフタートーク】
- 開催回数/6回
- アフタートーク参加者数/計195人

- 【学校招待】
- 4月26日(木):琴浦町立船上小学校4年生
- 4月27日(金):倉吉市立灘手小学校1~6年生・三朝町立南小学校1~6年生
- 5月2日(水):鳥取市立鹿野学園3~5年生
- 上演回数/3回(※5月2日の鹿野学園は一般と同日程で上演)
- 学校招待者数/計186人

食のイベント

『イワンのばか』を“食”で体感「イワン食堂」

～鹿野あたりの食の恵みをゆるり味わう夕べ～

公演期間中、地域の方々の協力を得て、作品の主題と関連した体験イベント「イワン食堂」を開催しました。「イワン食堂」は、舞台芸術と地域の多様な人材と豊富な資源の新しい出会いによって実現した、自然の恵みを上演作品と一緒に味わうことをねらいとした食のイベントです。地元で採れた野菜やタケノコやお米、イノシシ肉と地鶏、さらにその日の朝、鹿野の鳥の劇場の近隣で採取した野草などを、上演演目である『イワンのばか』にちなみ、ソビエト料理にアレンジし提供しました。地元産のクラフトビールも併せて楽しんでいただきました。

鳥取県立博物館の学芸員の方に野草について解説いただいたり、タケノコの生産者の方や、地元のお米の



生産者の方にお話を伺ったり、鳥取の豊かな自然と、その中で暮らすことがいかに幸せなことなのかを、『イワンのばか』の作品を通して感じ考え、その場にいた皆さんと一緒に共有し、再確認できた時間となりました。

- 日程/4月29日(日祝)・5月5日(土祝)
- 開催回数/2回
- イワン食堂来場者数/計150人
- イワン食堂協力/株式会社Trees 鳥取県立博物館 鳥取地どり生産者協議会 はらだ農産 鹿野おもしろ市場 鹿野あかり本願衆 白川大介 谷口味噌店 鹿野そば道場



剣を鍛える話

【『剣を鍛える話』再演にあたって】

芝居を作る時、私は二つの見方を持つようになっています。一つは、物語世界に入り込み、その世界の細部をできるだけ繊細に拾おうという視点です。何が美しいのか、何が悲しいのか、何が驚くべきことなのかを、その世界の内側の人として感じ、それをどうやって新鮮に外部（観客）に届けるかについて、俳優やスタッフといっしょに考え、試みを重ねます。

もう一つは、物語世界を外側から、上から見たり横から見たり、ひっくり返したりしながら、「なぜこの物語は長い間たくさん人の興味を引き続けたのだろう」と考える視点です。前者が内側からの目だとすると、これは外からの目、物語に対する客観的視点、歴史的視点ということになります。現代演劇の重要な目標は、「今」と物語をつなぎ、「今」に新しい光を当て、「今」を批評的に捉える機会を作ることです。そのための視点です。

まず内側からの目の話です。この物語では日常から遠いことがたくさん起こります。不思議な青い剣、中国の壮麗な王宮、かなえという大鍋の中での生首の戦い。映像で作るとCGだらけになるでしょう。それを視覚的にも楽しくかつ人間の感覚的にも説得力のあるものにすることが必要です。本作の初演は2007年で、その時につかんでいたものを、今回改めて見直し、より深め洗練させたつもりです。

現代の演劇は、映像との競争の中で、演劇固有の可能性を探ることが求められています。映像にできなくて、演劇や劇場だからできることを強く打ち出していけないと、映像に淘汰されてしまうからです。架空の世界をいかに具体的に視覚化するかが映像の目標だとすると、演劇の目標は、見えたものを通じていかに見えないものを想像させるかです。この作品の奇妙奇天烈な展開を、俳優の演技と様々な演劇テクニックによって、観客の皆さんにどれだけ想像させられるかは、作り手にとってとてもやりがいのある目標です。

もう一つの視点。メタな視点、客観的距離感を持った視点です。具体的に言うと「なぜこの物語が古代から語り継がれ

てきたか。何がこの話の時代を超えた魅力なのか」を考える視点です。この問いは、魯迅がなぜこの古代からの物語を取り上げたのかという問いでもあります。壮大な歴史と制度、広大な国土を持ち、それゆえに新状況への適応が遅れ混乱する清朝末期に生まれた彼は、1905年医学を学ぶ日本、仙台の学校で、中国で撮影されたスライドを見ます。一人の中国人がスパイの嫌疑で死刑にされる場面でした。それを囲む中国人同胞が、体は屈強だが、表情は「薄ぼんやり」していると彼は感じます。そして自分の最初になすべき任務は中国人の「精神を改造すること」と考え医学を捨て、「精神の改造に役立つもの」として文学を選びます。その彼が、1920年代、外圧と内乱で混乱を極める中国で、古代から伝わる復讐物語を使って、現代小説として成り立つよう構成を緻密に整え、描写を生きたものに変わりました。彼の潤色の仕事は本当に見事なものです。激しく揺れる中国で、古い伝説を題材に、権力の横暴とそれへの捨て身の復讐を鮮烈に描いて文学の新しい可能性を示しました。

が、彼は潤色だけで仕事を終わらせませんでした。加筆もしているのです。かなえの中での三つの首の戦いが終わった後の場面は全くの創作です。なぜこの物語を作家が取り上げたかという問いは、なぜ彼がこの加筆をしたのかという問いへと展開します。加筆部分は、そこまでの復讐物語に娯楽的カタルシスを感じる我々に、どこか居心地の悪さを与える強い異化の光を投げかけます。その光は、魯迅が本作を書いた1927年から100年近くを経て、今なぜこの作品を演劇として上演するのかという、我々にとって最も本質的問いへつながります。

加筆部分、それは一見奇妙です。特徴は主役がいなくなることです。それまでは、少年とか黒い男とか大王とか常に場面に主役がいました。しかし、序盤から中盤の大目標であった「復讐」が遂げられ、中心的登場人物が消えてしまいます。それとともに物語の目標も失われます。以降描かれるのは、中心的な権力が失われた場所での王宮や大衆の混乱です。



脱物語、脱中心的展開です。ここに魯迅の企みがくっきり浮かび上がっていると私は考えています。大衆と権力の関係です。それは20世紀の世界で最大のテーマでした。大衆が主役となった社会で権力をどのように作り出せるか、どのように民主的な社会を作ることができるか。それは20世紀初頭の混乱した中国の課題であり、日本にとっても戦前戦中戦後を通じて、ずっと課題であり続けました。もちろん今でもです。市民社会の成熟と安定を達成したかに見えたヨーロッパやアメリカもあらためて同様の課題にさらされています。

社会の構成員一人ひとりが、社会的課題について議論を尽くし、実行の過程にも自分ごととして関わるという理想は、これだけ社会が巨大となり多様化した中では実現不可能な絵空事かもしれません。が、その理想は持ち続けなければいけないものです。けれど残念ながらそのようにはできない人間の姿、現在も変わらない世界の姿が、物語最後、王の葬儀の衆愚的場面に見事に描かれています。権力が民衆を代表しておらず、あいかわらずの盲従、隷従、へつらいでしかなく、個人の欲望が暴走し、社会を一つにまとめる理念が失われつつあります。それは政治や経済システムの課題であり、極まるどころ人間精神の問題でもあるのです。魯迅が当時の中国人同胞に見た精神の「薄ぼんやり」した感じが、現在の世界を覆っているのかもしれない。

大きな話になってしまいました。でも、芝居です。どのように味わっていただいても構いません。ともかくまずは楽しんでください。人間の生身のエネルギーの素晴らしさ、想像する力の不思議さや自由さ、劇場で多くの他の観客とともに劇世界を体験するわくわくなどを思い切り楽しんでいただければと思います。

(演出家/鳥の劇場芸術監督 中島諒人)



- 原作/魯迅
- 構成・演出/中島諒人
- 出演/母、語る女、王妃:大川潤子 父、黒い男、武士、語る男:齊藤頼陽 眉間尺、武士、語る男:中垣直久 大王、武士:高橋等 語る女、楽器演奏:中川玲奈 語る老人、老臣:赤羽三郎 露払い、王妃:後藤詩織 聞く子ども、宦官、侏儒:安田菜耶 しなびた若者、王后、語る女:村上里美 語る女、楽器演奏:増谷京子
- スタッフ/舞台美術:中島諒人 舞台監督:岩崎健一郎 照明:生田正 音響:原伸弘(オハラ企画) 装置:赤羽三郎・カミイケタクヤ オブジェ制作:谷口かおり 小道具製作:中垣直久 衣装デザイン・製作:安田菜耶 衣装製作補助:浜田連珠 作曲・ヴィオラ演奏:武中淳彦 演出助手:藤岡千夏・浜田連珠 舞台スタッフ:坂井真央
- 國石百加・藤岡千夏 英語字幕翻訳:増川智子 字幕オペレーション:浜田連珠 制作:鳥の劇場
- 日程/9月6日(木)・7日(金)・8日(土)・9日(日) ※「鳥の演劇祭11」にて上演
- 会場/鳥の劇場
- 上演回数/4回
- 来場者数/計267人
- 【公演後アフタートーク】
- 開催日/9月6日(木)・7日(金)・9日(日)
- 開催回数/3回
- アフタートーク参加者数/計73人

三島由紀夫「近代能楽集」より4作まとめて上演!

『葵上』『班女』『熊野』『綾の鼓』

【演出ノートより】

作家は、「近代能楽集」について、能の主題や特長を生かしつつ、それらを「そのまま現代に生かすために、シチュエーションのほうを現代化した」と言っている。能がもっているおもしろさを現代人に伝えるための改変を施したと言っているようである。しかし、実際のところ、原作は換骨奪胎され、結末も逆になっている。例えば「班女」では、二人の男女は悲しい別離が再会によって救われるハッピーエンドだ。が、三島にかかる、二人の再会はちょっと異様な結末となる。世の中を逆から見るのがこの人の信条だから当然と言えばそうなのだが、能を生かすというよりは、道具にしている。なんの道具かと言えば、自分の教養と筆力を示す道具だ。

彼は、西洋の演劇が、相違する価値観がぶつかり合う対話により成り立っていることをよく知っていた。世界に立ち向かい破滅する行動の人間を描くことを通じて、人間や社会を考えるのが西洋の演劇である。そこでは会話でなく対話が展開される。日常の言葉のやり取りではなく言葉による戦い、議論だ。状況に流されるしかない人間の、悲しみや嘆きを叙情的に歌うことが多い日本の伝統演劇とは似て非なるものだ。三島が考えたのは、能の題材の中に「対話」を持ち込めないかということだった。世の人の考える常識と非常識、道徳と不道徳、倫理と非倫理、生と死、三島が執拗に取り上げるこれらの衝突を土台として対話が展開され、そこに愛されることへの熱望と、それが成就しないことへの不安、一瞬の快楽や美の追求などが盛り込まれる。だが、それらと能は、本当に合体可能なものなのか。

能を道具としたと私は書いた。が、しかし超現実的な演劇様式である能は、生と死や愛憎を象徴的に扱っている。だから、その幽玄にギリシャ演劇にまで遡る演劇的可能性を見抜いたのは、やはり三島の慧眼である。現存する演劇様式としては世界最古のものとも言われる能と、西洋演劇伝統の「対話」を接続しようという試みは、一見強引にも見えるのだが、極めて的を射たものであったと言えるし、三島の発明と言ってもいいと思う。

けれどその接続は、誰にでもできるものではない。幼少時から能や歌舞伎に深く親しんだアドバンテージを持ち、西洋演劇をのちに学んだ作家は、彼にしかできない才能の誇示として、これら改作に挑んだ。いかにも「ちょいちょいと気軽にやりました」という感じをにじませながらである。しかし、そこには、日本の文学的伝統や日本人の美意識を西洋の伝統とミックスすることで新しい普遍的演劇を産もうとする、彼の自信と決意があふれている。今回の上演作品は1952年から1959年の発表である。少なくとも、この時点では、彼は文学を通じて世界と対峙できると信じていた。この時点では、あの最期の兆しは感じられない。文学を通じて、日本に希望を感じている(もちろん最期につながる芽は眠っているのであろう)。

四作上演を通じて、共通に考えたのは、この対話を演劇として魅力あるものとし、観客にどっしりした何かを届けることだ。演劇を支えるドラマは、論理のぶつかり合いと、それによる感情の動きによって生み出される。感情こそが重要と考える人が多いだろうが、土台となる論理のぶつかり合いが見えないと、感情の動きも魅力的にならない。とりわけ三島作品は、論理とその展開がおもしろい。一見奇妙だが、よくよく聞くと本当におもしろいことを言っている。が、やっかいなのは、この論理がわかりやすいものではないこと。独特の言葉遣いによる、一見奇異な論理を説得力をもって語り、内容を観客に届けること。ただ聞かせるだけでなく、感情の動きもともなわせながら語らなければならない。しかし、感情と明晰な論理の両立は簡単なことではない。どの優れた劇作家の言葉も、その本当に意味するところは、繰り返しのリハーサルの中でしか姿を見せない。三島の言葉はことさらだ。黙読では意味がわからない。少なくとも私にはわからない部分が多い。けれど、演劇の言葉として感情や感覚をもって語られると、論理が段々に見える。そこで新しい感情が見つかり、また新しい論理が見える。論理と感情の往復は、果てない道のりでありながら、作品作りの喜びである。それにしても、日本の演劇にとって三島由紀夫が生きたことは、かけがえのない宝だとつくづく思う。

(演出家/鳥の劇場芸術監督 中島諒人)

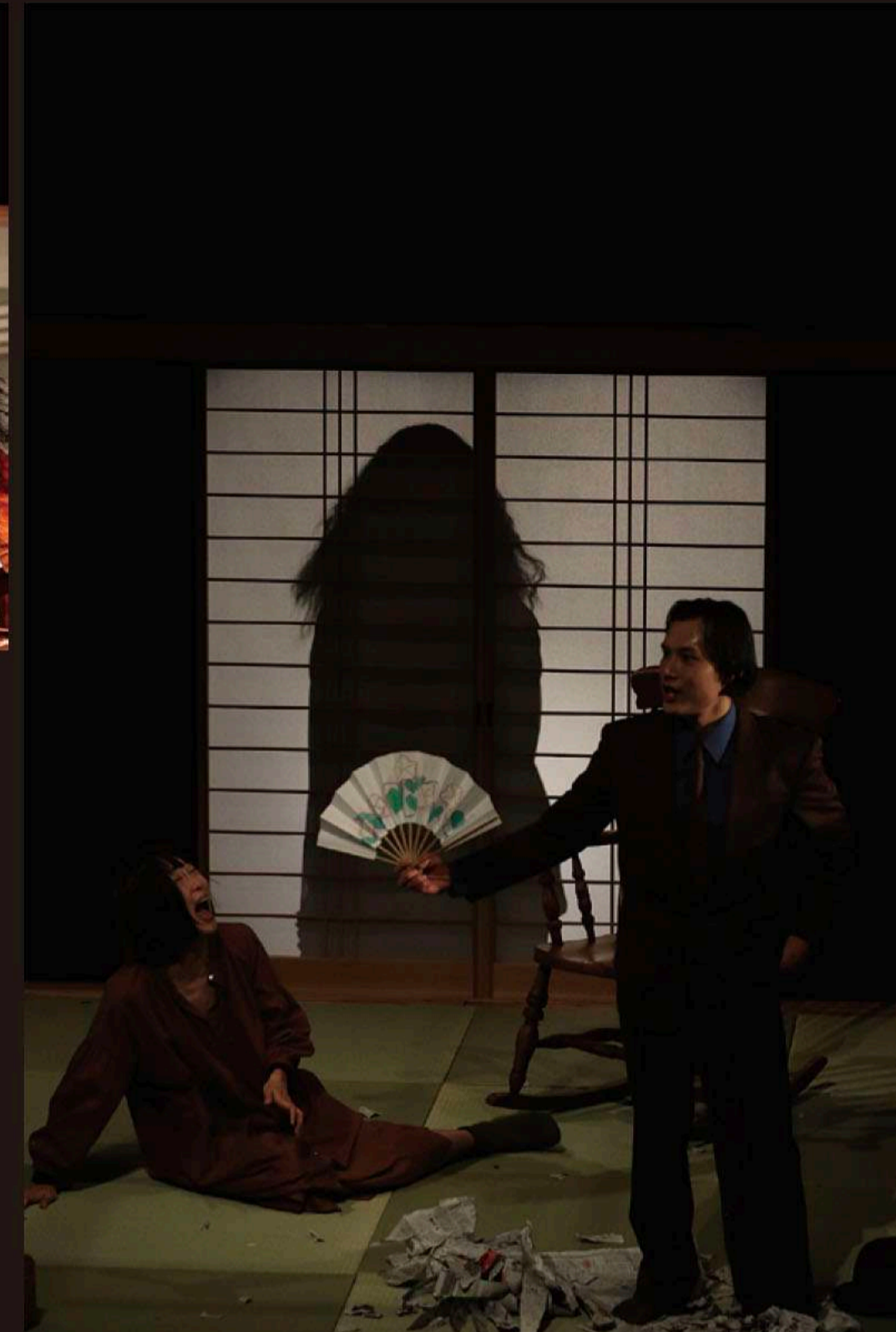
- 作 / 三島由紀夫
- 演出 / 中島諒人
- スタッフ / 衣装デザイン:安田菜耶 衣装製作:安田菜耶・村上里美・KiRI・浜田あけみ 大道具:赤羽三郎 照明:生田正 音響:原伸弘(オハラ企画) 舞台監督:岩崎健一郎 英語翻訳:増川智子 英語字幕・字幕操作:安田菜耶・増川智子 制作:鳥の劇場
- 会場 / 鳥の劇場

- 日程 / 2019年2月22日(金)・23日(土)・24日(日)・3月1日(金)・2日(土)・3日(日)
- 上演回数 / 計16回(4演目を1演目につき4回上演)
- 来場者・参加者数 / 上演:計962人 アフタートーク:計545人 プレートク:計88人 食のイベント内鳥劇食堂:計200人 懇親会:計100人 延べ1,895人



班女 新作

- 出演 / 本田実子・大川潤子 花子:後藤詩織 吉雄:中垣直久
- 使用楽曲 / 吉田野乃子「Lotus」より
1.East River 2.Desert Island 3.Lotus
- 協力 / 若桜橋絵画教室
- 来場者数 / 計213人



葵上

- 出演 / 若林光・齊藤頼陽 六条康子(生霊):阿部一徳(SPAC) 六条康子:大川潤子 看護婦:安田菜耶 葵:後藤詩織
- 来場者数 / 計188人





熊野

■出演／熊野:中川玲奈 宗盛:高橋等
朝子:中垣直久 山田:齊藤頼陽 マサ:大川潤子
■来場者数／計221人



綾の鼓 新作

■出演／本田岩吉:阿部一徳(SPAC) 加代子:女店員:安田茉莉
藤間春之輔:高橋等 金子:齊藤頼陽 戸山:中垣直久
マダム:後藤詩織 華子:大川潤子
■来場者数／計340人



プレトーク

「三島由紀夫を巡って」

三島由紀夫についての評論を執筆されたお二方に、それぞれの視点で「三島」を語っていただきました。

■日程／2019年2月23日(土) 評論家 菅孝行氏
3月 2日(土) 社会学者 大澤真幸氏

■開催回数／2回
■プレトーク参加者数／計88人



公演後アフタートーク

■開催回数／10回
■アフタートーク参加者数／計545人

食のイベント

春近い鹿野で、芝居とともに 「飯」、「茶」、「酒」、「湯」、「宿」

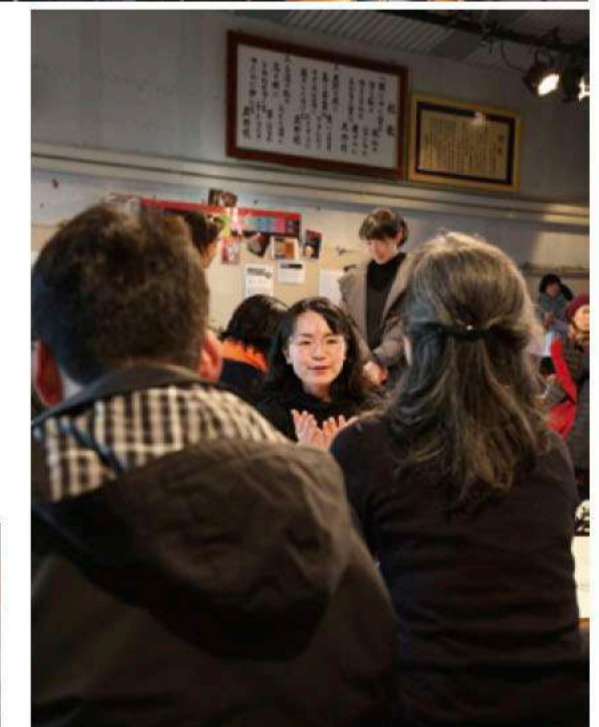
上演の幕間に、特製幕の内弁当やいちご大福などのお菓子やお茶、甘酒などを提供。夜には食事として、おにぎり・串焼き(自分で焼いてもらう)・おでんなども提供。近所にお住いのご家族が食事のみでご利用されている姿もありました。

近くの日帰り温泉までの送迎も行いました。また、観劇に来られたお客様が温泉と夕食を楽しめるように、地元の宿泊施設と連携して観劇との宿泊パックを企画。県外のお客様に多くご利用いただきました。

■協力／株式会社Trees AKARI BREWING 酒うらら
株式会社ふるさと鹿野 国民宿舎三紫苑

【鳥劇食堂】(「酒」部分)

■日程／2019年2月22日(金)・23日(土)・3月1日(金)・2日(土)
■開催回数／4回
■鳥劇食堂来場者数／計200人



懇談会

演出家、出演俳優が参加しての懇親会を行いました。

■日程／2019年2月24日(日)・3月3日(日)
■開催回数／2回
■懇親会参加者数／計100人



❖ イワンのばか



❖ 剣を鍛える話



❖ 葵上



❖ 班女



❖ 熊野



❖ 綾の鼓





2月16日 齊藤頼陽さん
(葵上:若林光/熊野:山田/綾の鼓:金子)

皆様、お待たせいたしました。鳥の劇場での上演は昨年9月以来ですね。今回は三島の短編を一挙に4作品上演します。上演時間1時間程度の短編とはいえ4作品同時進行となると、稽古・準備の時間がどうしても足りなくて、もう少し時間があれば、なんて思ってます、正直な話。これを見越して昨年の12月から稽古は始めていたはずなのに!「だって、演劇ってはっきり終わりがあつたものじゃないから、キリがないんです!」なんて、ただの言い訳ですね。まあ、初演・初役の時は大体いつもこんなものです。

今回、SPACの名優、阿部一徳さんに客演していただいています。実は私、前回の阿部さんとの共演がきっかけで台詞のラリーの面白さを感じられるようになったと思っています、『葵上』の稽古が楽しみで仕方がないのです。なので特にオススメは『葵上』かなあ。いやいや、他のどの作品もオススメです!心配の種である雪も今年は降らなそうです、安心してどしどしご来場ください。鳥取市内の方は無料送迎バスもありますよ!皆様のお越しを劇場でお待ちしております。



2月18日 大川潤子さん
(葵上:六条康子/熊野:マサ/班女:実子/綾の鼓:華子)

オオカワです。三島由紀夫の戯曲とは縁あって演劇をやっていることと決めた当初からいつもそばにありました。近代能楽集、特に班女や卒塔婆小町は長いつきあいで、出会ってから下手するとそろそろ20年になるでしょうか。うへえ。今回は上演ませんが、卒塔婆小町はとても美しい戯曲なので、ご興味あればぜひ一度読んでみることをおすすめします。最初にやった三島の戯曲は熱帯樹でした。どんな印象だったか久しぶりに思い出してみますと…覚えづらいセリフの大群をともかく必死に消化していく、という感じだったような気がします。なんせ普段の会話では絶対使わないような一人称、語尾、そして形容詞のつるべうち。あたくし、○○だわ…とか言わねえ!どのツラ下げて言えばいいのかと本当に恥ずかしかったものです。ところが無理やりでもそれらの言葉を飲み込み続けていると、不思議なもので、別の戯曲をやった三島ワールドに戻って来たときに妙な安心感を覚えることに気づきました。日常的な会話より三島由紀夫のレース織みたいな長セリフの方が口になじむと言いますか、むしろ覚えやすいような気さえしてきます。

今回、数年ぶりに近代能楽集をやります。え〜、子供の頃に一緒に遊んでくれた大好きな叔父さんがいるとします。ちよくちよく家に来ては、手品を見せてくれたり、面白いおもちゃをプレゼントしてくれたり、ゲームをやってくれる叔父さんです。でも、だんだん高校、大学、就職したりして気がついてみれば最近では年始の挨拶くらいでしばらくまともに会えていなかった。で、10年ぶりくらいにいとこの結婚式で親戚一同集まり、叔父さんとお喋りすることができた。わー、ゆきおおじさん、ごぶさたしてますー!おー、じゅんこ、なにお前今鳥取で仕事してるんだって? そうなのよー! お前も頑張ってるなあなんつって、なんとなく仕事の話とかしたりしてそのうちちょっと真面目な人生についてとか話しちゃったりして、ああ、やっぱりゆきおおじさんだったらこんな風に返してくれると思ったよ、とか、いやいやおじさん、今はそんな時代じゃないって、とか苦笑いしてみせたりするでしょ。するとおじさんが、あの一、意外と人間なんていつの時代も変わらんから、俺の若いころは…… みたいなきもちで、やっぱりおじさん好きだわーって思う。 そんな距離感です。 どれも面白い作品ですのでどうぞご覧ください。食のイベントも楽しみです!



2月20日 阿部一徳さん
(葵上:六条康子/綾の鼓:若吉)

7度目の鳥取県鹿野、僕としてはもうね「ただいま!」という感覚(笑) 演出の中島さんはじめ鳥の劇場の皆さんとの創作は6年半ぶり5度目。今回はまず、江戸時代! に建てられた古民家をリノベーションしたゲストハウスに泊めさせていただき、次にもう少し一人暮らしにも勝手のいい〜やはリノベした古民家に引っ越ししたんですが、こういった貴重な家に住まわせていただき、町に溶け込みつつ創作するのも鳥の劇場さんのユニークなところ。久しぶりの鹿野、楽しんでいま〜す! さてさて、演劇と一言でいっても…様々な集団や劇団があって様々な演出家が出て、稽古の進め方もじつにじつに! 様々なわけですが、ここに来ていつも思うのは… “仏師は、木に仏を彫るのではなく、木に埋まっている仏様を顕すのだ” 三島由紀夫の書く台詞というのは、これは昔からよく言っているんですけどね、お酒のつまみになっちゃう。何よりもまず美しい! から、どうしゃべろうか考えるだけでワクワクしちゃう、またとにかく咀嚼がいがあるというか…一度読んでいただけじゃあさっぱりわからなかったり…何度口にしてみてもちっとも腑に落ちなかったり(笑) 中島さんの稽古の進め方というのは、三島作品に限らず、論理的に仮説をたてながら〜それをひとつひとつ丁寧に検証していくんですね、ひとつひとつの台詞を、会話を、俳優と一緒に検証していく。その繰り返し、その積み重ね。

これは、作品に埋まっている〜テーマや、さらにその裏に! 隠されているテーマだったり、作者が込めた思いだったり、登場人物ひとりひとりの深層や真相やらを“彫り出す”作業なんだな、その作品に確実に埋まっている一番力強い中心部分を彫り出す。 繊細に、時には大きな鉈も使ったりして。 こうやって出来る鳥の劇場の作品はじつにシンプルでありながら、じつに力強いのである。こういう舞台は観ていて気持ちいいのである。そう、僕は大好き! なのである。 稽古はさらなる細部に突入したところ、4作品ともにそれぞれが濃く濃〜く(笑)なってきたですね、いい仕上がり、普段は触れることのない世界を堪能していただけだと思います。たくさん皆様と終演後にお話しするのが本当に楽しみ。 ご来場を心よりお待ちしております。

【おまけ ちょっと専門的なお話し】

身体感覚と発語の関係→三島の論理的で装飾的な台詞←感情が高ぶった時 身体感覚と声の関係はなく、途中のクッション部分ね、今まで意識したことないけど、今回の個人的な課題。 じつに発見が多い。ふふふ。



上演ともっと深く出会うための戯曲の講座

2018年度も本公演と併催する形で3回実施しました。同作家の別戯曲を取り上げ、その作品が生まれた時代背景も紹介しながら、戯曲の世界を理解することを目指す本講座は、音読したり、少し演じてみたり、参加者同士で話をする事で、参加者それぞれの理解を共有し一層深い作品理解の場を提供します。観劇をより深く楽しむ機会となればと考えています。

三回の講座はどれも好評でしたが、とりわけ三島由紀夫作品の際は人気が高く、19名の参加者は過去の戯曲講座の中で最高の参加者数でした。



■講師/中島諒人(鳥の劇場芸術監督)
■会場/ギャラリー鳥たちのいえ(鳥取市本町1丁目201ミュトスビル)

『イワンのばか』関連企画 戯曲講座①

「トルストイの寓話を読んで、ちょっと演じる。」

- 使用テキスト/『人は何で生きるか』
- 著者/L.トルストイ
- 日程/4月20日(金)
- 参加者数/5人



『剣を鍛える話』関連企画 戯曲講座②

「魯迅を読む。」

- 使用テキスト/『剣を鍛える話』
- 著者/魯迅
- 日程/8月31日(金)
- 参加者数/7人

三島由紀夫「近代能楽集」より
『葵上』『班女』『熊野』『綾の鼓』関連企画 戯曲講座③

「三島由紀夫「近代能楽集」『葵上』を読んでみる。ちょっと演じる。」

- 使用テキスト/『葵上』
- 著者/三島由紀夫
- 日程/2019年1月18日(金)
- 参加者数/19人



子どものための小鳥の学校

■日程／7月21日(土)～2019年3月24日(日) ※実施回数／稽古24回 上演2回

6月30日(土) 面接(応募者多数のため)
7月21日(土) 入校式とオリエンテーション



7月21日(土)・22日(日)
【語りと歌】自分のことを語って歌い、みんなのことを聞く。
9月16日(日)・17日(月祝) 【ことば】ことばをみんなで楽しんで、それぞれのやりたい物語を台本にしてみる。(鳥の演劇祭11)でリーディング発表。



- 対象／小学校5年生～中学校3年生
- 参加者数／27人
- 実施場所／鳥の劇場(※9月のみ鳥取市鹿野地区保健センター・鹿野町農業者トレーニングセンター)
- 監修／中島諒人
- 講師／Yoo Taehoon(語りと歌) 菊池ひみこ(語りと歌)
西尾悦子(語りと歌) 上田假奈代(ことば)
大岡淳(ことば) 目黒大路(からだ)
- サポート／武中淳彦(作曲) 安田菜耶(衣装)
高橋等(演技) 赤羽三郎(舞台装置) 生田正(照明)
中島諒人(演出)
- 受講生サポート／中川玲奈 村上里美 後藤詩織
中島紀子
- 発表公演／舞台監督:赤羽三郎
音響設定:原伸弘(オハラ企画) 字幕対応:安田菜耶

11月17日(土)・18日(日) 上演する物語を選ぼう。



12月～2019年2月 【からだ】準備ダンスをつくろう。
12月15日(土)・16日(日)・22日(土)・23日(日)
配役を決めよう。衣装、音楽、舞台美術を考えよう。



2019年1月19日(土)・20日(日)・26日(土)・27日(日)
演じる、観察する。
2月9日(土)・10日(日) ほぼほぼ完成させよう。
3月9日(土)・10日(日) 進行を考える。通してやってみる。
3月16日(土)・17日(日) 集中リハ、道具や衣装づくり(合宿)



3月21日(木祝)・22日(金)
演じる、観察する。全部通してやってみる。
3月23日(土) ゲネプロ、発表公演①
3月24日(日) 発表公演②、修了式

例年実施している小中学生対象の「小鳥の学校」は、小鳥の学校参加歴3年～5年目が7名、2年目が7名、初参加が13名と過去最高の参加者となり、発表公演にも多くの来場がありました。事業を継続しているおかげで、経験値でも学年でもいろいろな面で縦割りのグループワークを実施することができ、子どもたち同士で学び合い、楽しんで主体的に行動する流れができていきました。

特に衣装では、4年目の子がリーダーとなり、仕事のやり方の見本となって行動し、他の子へのアドバイスやフォローもしていました。手作りするものでは、従来なら

【小鳥の学校発表公演】 あなたは本当の人間ですか? ようこそ鬼物語へ『人間×鬼×偏見=?』

- 構成・演出／小鳥の学校受講生と中島諒人
- 出演／小鳥の学校受講生:安東優 伊奈環 今田陽葵 上田一乃
太田小彩姫 金井風穂 亀井彩加 亀井俊佑 北川ひかり 小林楓花
清水胡春 高橋鳴 田食幸拓 田中千尋 種原大悟 永川楽来
永原一寛 中村圭吾 中山折 中山楓 西川喜八 西川環 東方暁杜
山田健太郎 山田笙介 山根小夏 山本竜馬
- 公演日程／2019年3月23日(土)・24日(日)
- 会場／鳥の劇場[劇場]
- 上演回数／2回
- 来場者数／計378人



イメージをスタッフに伝え、大人が製作していましたが、今年は自分たちでパターンから引いて、ミシンもアイロンも使って仕上げることができ、十二分の達成感を得られたようでした。



高校演劇もって盛り上げ事業 つくる高校生

鳥の劇場で高校生とアーティストが演劇・舞台作品をいっしょにつくる取り組みです。作品づくりを通して自ら考え創作する力の向上を目標としています。

様々な高校からの参加による活発な交流を企図し、学校の部活動との両立の難しさなど困難もありました

が、前期においては韓国安山市での公演も無事行うことができ、後期には「マクベス」を上演。両方ともたいへん好評で、参加の高校生も非常に充実した体験を得ました。

前期 ミュージカル『極東ラブストーリー』と日韓高校生交流事業

舞踏家・目黒大路氏を振付家・演出家として招き、ミュージカル作品に取り組みました。高校生たちは学校が休みの土日や夏休みの期間を使ってダンス・歌・演技に取り組み、韓国・安山市と「鳥の演劇祭11」で上演、また安山の青少年劇団「コドゥンオ」との交流を実施しました。

『極東ラブストーリー』が描くものは、社会からのけ者扱いされ行き場がなくなった子どもたちの反発、恋愛、

抗争です。いがみ合う二つの集団と集団の枠を越えて愛し合う二人の姿を今の日韓関係と重ねた作品でもあります。国家間の政治的状況に目を配りながらも、個人が友情で繋がる事の大切さをこの作品や交流事業を通して高校生たちにじっくりと考えてもらおう事が出来ました。

- 参加者数 / 13人
- 日程 / 5月26日(土)～9月16日(日) ※実施回数 / 稽古36回 上演3回
- 5月26日(土) 稽古開始
- 7月27日(金) 韓国・安山市 青少年劇団「コドゥンオ」と交流ワークショップ
- 7月28日(土) 韓国・安山市 青少年劇団「コドゥンオ」の公演を観劇・観劇後、交流会
- 8月11日(土) 韓国・安山市「ビョルムリ劇場」で上演
- 9月15日(土)・16日(日) 「鳥の演劇祭11」にて上演
- 稽古会場 / 鳥の劇場・ギャラリー鳥たちのいえ



ミュージカル『極東ラブストーリー』

- 構成・振付・演出 / 目黒大路
- 出演 / 「つくる高校生」前期受講生:宇田川真緒 土井理梨 梶川真奈 春名雪乃 岡本那々華 船越涼花 藤縄耕平 泉明希 中村拓斗 岩森太生 三戸彩世 西井亜美 前田恵子

〈韓国公演〉

- 公演日程 / 8月11日(土)
- 会場 / 安山文化芸術の殿堂 ビョルムリ劇場(韓国・安山市)
- 上演回数 / 1回 ■来場者数 / 105人
- 韓国スタッフ / 劇団コルバン 企画・総括:チェ・ヒョンミ 企画・進行:パク・ギテ、チョン・チョル、ユ・ウオンギョン
- 日本スタッフ / 舞台監督:生田正 照明:三枝淳 音響:原伸弘(オハラ企画) 翻訳:通訳:田川智子 制作:松本智彦

- 【公演後アフタートーク】
- アフタートーク参加者数 / 92人

【助成】公益財団法人鳥取県国際交流財団
山陰・夢みなと博覧会記念基金助成事業

〈鳥取公演〉

- 公演日程 / 9月15日(土)・16日(日)
- ※「鳥の演劇祭11」のプログラムの一環として上演
- 会場 / 議場劇場
- 上演回数 / 2回 ■来場者数 / 計177人
- スタッフ / 舞台監督:坂井真央 照明:三枝淳 音響:原伸弘(オハラ企画) 衣装:安田菜耶 字幕作成:浜田連珠 字幕操作:藤岡千夏 制作:鳥の劇場

- 【公演後アフタートーク】
- 開催日 / 9月15日(土) ■開催回数 / 1回
- アフタートーク参加者数 / 計78人



【韓国の高校生と鳥取の高校生が演劇とダンスを通じて交流する2日間】

韓国京畿道の安山文化財団とともに開催する日韓高校生交流事業です。2018年で二回目となります。安山市の高校生が参加する青少年劇団「コドゥンオ」と鳥取の高校生が、ワークショップと観劇を二つの軸として交流を行いました。『つくる高校生』に参加している学生だけでなく、県内の全高校に募集をかけ演劇や韓国に興味のある生徒が集まりました。

最初に舞踏家目黒大路氏によるWSを行い、高校生たちは自分の名前を体をつかって表現し互いに自己紹介をしたり、その動きをもとにソロのダンスを作りました。昼食の時間では日韓の高校生同士が談笑したり輪になってゲームをしたりと自主的に交流する姿がありました。

【助成】公益財団法人鳥取県国際交流財団
山陰・夢みなと博覧会記念基金助成事業

演劇とダンスワークショップを通じて交流しよう!

- 日程 / 7月27日(金)
- 会場 / 鹿野町中央公民館体育館
- 進行 / 韓国の劇団「コルバン」と鳥の劇場と目黒大路
- 参加者 / 韓国・安山市 青少年劇団「コドゥンオ」と鳥取の高校生
- 開催回数 / 1回 ■参加者数 / 53人

上演を観よう! 終演後も交流しよう!

- 【こんにちは!ロマンス】～恋だろうか?うん、恋だよ～
- 演出 / ヤン・ジンソク ■作曲 / ミンドゥルレ
- 作家 / ビョン・ヒョジン ■振付 / キム・ウンチョン
- 出演 / 韓国・安山市 青少年劇団「コドゥンオ」:クワン・ミンジョン、キム・ナユン、キム・ナムギョ、キム・ナミ、キム・ジュヒ、ベク・スンジュ、ソ・ユリム、ソン・ジョンウン、アン・ジュヨン、オ・ヘリム、イ・ドンファン、イ・ジェグオン、イ・ジミン、イ・ハラ、リッタ、ジョン・ウヨン、ジョン・イェチャン、ファン・イェビン
- 日程 / 7月28日(土) ■会場 / 鳥の劇場
- 上演回数 / 1回 ■来場者数 / 55人
- アフタートーク参加者数 / 45人

後半のWSではコルバンのチェヒョンミさんが講師となって、ジェスチャーゲームや風船を使ったワークショップを行いました。言葉を使わないコミュニケーションによって高校生同士がより親睦を深めることが出来ました。

国家間の歴史をめぐる問題が取りざたされ続ける中、若い世代が出会い、演劇を切り口にしながら相互の認識を深めることは、東アジアの新しい未来のための第一歩になるはずで、2019年も、この交流がぜひ実現できるように、安山文化財団のみなさんと力を合わせていきたいと思っています。



鳥の劇場俳優・大川潤子と舞台作品をつくりました。8人の高校生と登場人物や物語の解釈を深め、振り付けも考えて体を動かしながら作品をつくりました。

後期は、高校生向けの戯曲講座も行いました。

- 参加者数／8人
- 日程／11月10日(土)～2019年3月30日(日)
- ※実施回数／稽古44回 上演2回
- 稽古会場／鳥の劇場・ギャラリー鳥たちのいえ

『マクベス』

- 原作／W.シェイクスピア
- 構成・演出／大川潤子
- 出演／「つくる高校生」後期受講生:土居理梨 宇田川真緒
藤縄耕平 梶川真奈 三戸彩世 米谷静来 本泉昂起
- スタッフ／照明:森田茂伸(米子舞台)・生田正
音響:原伸弘(オハラ企画)
舞台スタッフ:赤羽三郎・藤岡千夏
衣装・日本語字幕操作:安田茉耶 演出助手:中垣直久
制作:鳥の劇場
- 公演日程／2019年3月29日(金)・30日(土)
- 会場／鳥の劇場[スタジオ]
- 上演回数／2回
- 来場者数／計98人

- 【公演後アフタートーク】
- アフタートーク参加者数／計80人



【戯曲講座】高校生といっしょに名作戯曲を読む

- 講師／中島諒人(演出家・鳥の劇場芸術監督)
- 会場／ギャラリー鳥たちのいえ
- 実施回数／4回

第一回『人形の家』

- 著者／ Henrik Ibsen
- 日程／11月30日(金)・12月14日(金)
- 参加者数／延べ27人(14人・13人)

第二回『セールスマンの死』

- 著者／ Arthur Miller
- 日程／12月22日(土)・2019年1月14日(月祝)
- 参加者数／延べ26人(17人・9人)



創造の場としての劇場は、どのような専門家がいる、どのような機能を持った場所なのか、どのような思想を持って、どのような組織で動いているのか…。そんな難しいことはわからなくても、具体的に、劇場を体験してもらう(照明・音響・衣装・俳優・演出の仕事を紹介し、実際にやってみてもらい)ことで、何か伝われば良いのではと思っています。

現在ではなく、未来の劇場が社会に果たす役割を探していくのは、これから先の未来を生きる子どもたちです。劇場の仕事を経験してもらいながら、いろんなことを考えてもらえたようで、夏休みの自由研究の題材にしてくれた小学生もいました。

- 対象／小学校4年生～中学校3年生
- 日程／8月18日(土)
- 会場／鳥の劇場
- 参加者数／18人



若手演劇人の作品向上、社会との関係づくり支援事業

鳥の劇場では2017年から若手演劇人育成のための企画をスタートさせました。利賀演劇人コンクールやこまばアゴラ劇場との連携のもと、意欲と才能のある若手演劇人を招聘し、鳥の劇場の施設を利用した滞在創作や、演劇の力をいかに社会とつないでいくかについての研修を行います。

2018年度は2017年度の利賀演劇人コンクールでの優秀賞受賞の演出家・岩澤哲野氏の演出による作品『呉將軍の足の爪』の立ち上げからリーディング上演、韓国での上演を経た後の集中的な稽古と上演を鳥の劇場の施設、スタッフを提供して行いました。

さらに、韓国芸術総合学校のイ・ソンゴン教授の協力のもと、戯曲の関連書籍や文書のリサーチ、韓国現

代戯曲の専門家へのインタビューを行いました。

研修・発表では鳥の劇場の俳優を講師として、鳥の劇場の事業や俳優の仕事について披露し、地元の鹿野学園で行っているワークショップ事業への参加、見学も行いました。それを経て、受講生が現在の演劇活動や自分の持つスキルを基にし、どのように社会と関係を築くことができるのかを考え発表してもらいました。

若い演劇人たちが、先輩演劇人の助言や観客からのフィードバックを受けながら半年以上かけて作品に取り組むことは、演劇について、集団について、作品について考える上で、非常に有意義な体験になったことと思われます。また上演作品も12月時点ではかなり質の高いものとなりました。

前期 滞在制作とリーディング上演

- 招聘団体 / libido 滞在制作参加者数:11人
- 滞在制作日程 / 5月9日(水)~5月21日(月) 13日間

朗読劇『呉將軍の足の爪』

- 作 / 朴 祚烈(パク・ジョヨル)
- 演出 / 岩澤哲野(libido)
- ドラマツルク / 李 星坤(イ・ソンゴン)
- 出演 / 稲川悟史 大蔵麻月(白昼夢)
大橋悠太 緒方壮哉 杉山賢 鈴木正也
永瀬泰生(隣屋) 原田つむぎ(東京デスロック)
- スタッフ / 映像:松尾祐樹(空白バカボン)
音楽:三浦雨林(隣屋) 照明:生田正
舞台スタッフ:赤羽三郎 日本語字幕:安田菜耶
制作:鳥の劇場
- リーディング上演日程 / 5月20日(日)
- 会場 / 鳥の劇場[スタジオ]
- 上演回数 / 1回
- 来場者数 / 44人

- 【公演後アフタートーク】
- アフタートーク参加者数 / 計35人



後期 滞在制作と上演、研修と成果発表

- 招聘団体 / libido 滞在制作参加者数:15人 研修参加者:12人
- 滞在制作日程 / 11月25日(日)~12月3日(月) 9日間

『呉將軍の足の爪』

- 作 / 朴 祚烈(パク・ジョヨル) ■演出 / 岩澤哲野(libido)
- 出演 / 稲川悟史 大蔵麻月(白昼夢) 大橋悠太 緒方壮哉 杉山賢
鈴木正也 永瀬泰生(隣屋) 原田つむぎ(東京デスロック)
- スタッフ / 映像:松尾祐樹(空白バカボン)
音楽・演出助手:三浦雨林(隣屋/青年団) 美術:角浜有香
衣装:永瀬泰生(隣屋)・原田つむぎ(東京デスロック) 音響:櫻内憧海
照明:高瀬勇佑(RISE) 舞台監督:熊木進 制作:本郷麻衣
- 上演日程 / 12月2日(日)
- 会場 / 鳥の劇場[劇場] ■上演回数 / 1回 ■来場者数 / 72人

- 【公演後アフタートーク】
- アフタートーク参加者数 / 計43人

【俳優のための研修】

- 研修日程 / 11月26日(月)~12月3日(月) 8日間 研修回数6回
- 26日 鳥の劇場施設・活動の紹介、鳥の劇場での俳優の仕事などについて紹介
- 27日 鳥の劇場俳優によるWS体験、WSをつくってみる①
- 28日 WSをつくってみる②
- 29日 WS実施
- 30日 振り返り、WS事業を考える①
- 1日 WS事業を考える②
- 2日 研修成果の発表

- 研修受講者 / 星善之(百景社) 朝比奈竜生(青年団)
藤松祥子(青年団) 野宮有姫(青年団) 『呉將軍の足の爪』出演者8人
- 成果発表 / 12月2日(日)
- 会場 / 鳥の劇場[スタジオ] ■開催回数 / 1回
- 来場者数 / 30人 ■ファンリテータ / 中島諒人
- 講師 / 鳥の劇場俳優(齊藤頼陽、中川玲奈、高橋等、大川潤子ほか)



音楽ライブ『Life is Beautiful』

フランスとイスラエルのバンド、ウインターファミリーのお二人とはフランスで出会い、鳥の演劇祭6に招きました。昨年、「日本でライブをやりたいんだけど、いい劇場だったし、また行きたいなあ」という連絡をもらい、来てもらうことにしました。

今回は、10歳の娘さんも含めて三人の演奏。ワイアードウェーブ(不気味な波)、フネラルポップ(お葬式ポ

ップ)と称される彼らの音楽は、名前だけ聞くとちょっと暗く怖い感じですが、クールで知的ないかした音楽です。

鹿野で生まれた地ビール「GINGER BROWN ALE」のアカリ・ブリューイングさんと、「出張日本酒 Bar」の酒うららさんにもご協力をいただきました。



- アーティスト/Winter Family(Ruth Rosenthal(ルース・ローゼンタール) Xavier Klaine(クザヴィエ・クレヌ)によるデュオ)
- ゲスト/Saralei Klaine(サラレイ・クレヌ)
- サウンドエンジニア/Anne Laurin(アンヌ・ローラン)
- 開催日/4月21日(土)
- 会場/鳥の劇場[スタジオ]
- 開催回数/1回
- 来場者数/43人



02

鳥の演劇祭 11

“BIRD” THEATRE FESTIVAL TOTTORI 11

人の光を観るのが観光ならば、舞台を観るのは最高観光だ!

【期間】9月6日(木)、7日(金)、8日(土)、9日(日)、14日(金)、15日(土)、16日(日)、17日(月祝)、22日(土)、23日(日祝)

【会場】鳥の劇場(主会場)と鹿野町内各所

鹿野往来交流館「童里夢」・
議場劇場(旧鹿野町役場議場)・
くるびや劇場・勝谷体育館・しかの心

2018年度の鳥の演劇祭は上演場所として新たに二会場を加え、体育館や閉店してしまったスーパー(くるびや)も劇場化し、計五ヶ所の上演会場にて実施しました。アメリカ、イギリス、韓国、香港などの海外からの作品と合わせて、国内の優れた演劇作品を集めることができました。

また、さまざまな立場の方との作品づくりをプロデュースし、演劇祭の舞台で発表しました。鳥取の高校生がプロの振付家や舞踏家と一緒に作品をつくったり、高齢者の方を公募して、「お年寄りのお年寄りによるみんなのための演劇」という公演にも挑戦し、地元住民や高校生の参加を促しました。

さらに、シンポジウムや「産み育てを考えるワークショップ」など、演劇の表現を切り口に、社会が直面している問題へのアプローチも試みました。合わせて、鹿野町という城下町エリアの空き家に、地元食材を使った飲食店・雑貨店・ギャラリー・鳥の劇場の演目にちなんだテーマハウスなども出店しました。



鳥の演劇祭11来場者数(延べ)4,850人
※ナイトイベント等をのぞく
週末だけのまちのみせ(延べ)11,758人
総来場者数(延べ)16,608人



昨年同様、テントでの宿泊のコーディネートや、日本語作品の英語字幕対応、地元タクシー会社との連携による「鳥取駅から鳥の劇場までの定額運賃」の実施に加え、初の試みとして今年度は「浜村駅・各会場・鳥の劇場をつなぐ無料の循環バス」を運行し、観光的なニーズへの対応も行いました。近隣の中国地方各県をはじめ、全国から多くの方にお越しいただき、地域と連携して賑わいや新しい交流の風を吹き込むことができました。

- 【主催】鳥の劇場運営委員会
- 【共催】鳥取県 鳥取市 特定非営利活動法人鳥の劇場
- 【協力】NPO法人いんしゅう鹿野まちづくり協議会
鳥取大学地域学部附属芸術文化センター
- 【助成】平成30年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業 鳥取県
鳥の劇場運営委員会補助金
- 【後援】鳥取県教育委員会 鳥取市教育委員会 駐大阪・神戸米
国総領事館 新日本海新聞社 朝日新聞鳥取総局 山陰中央
新報社 毎日新聞鳥取支局 読売新聞鳥取支局 産経新聞
鳥取支局 日本経済新聞社鳥取支局 中国新聞鳥取支局
NHK鳥取放送局 日本海テレビ BSS山陰放送 TSK山陰中
央テレビ 共同通信社鳥取支局 時事通信社鳥取支局 日本
海ケーブルネットワーク FM鳥取・RADIO BIRD
- 【プログラム・ディレクター】中島諒人(演出家・鳥の劇場芸術監督)

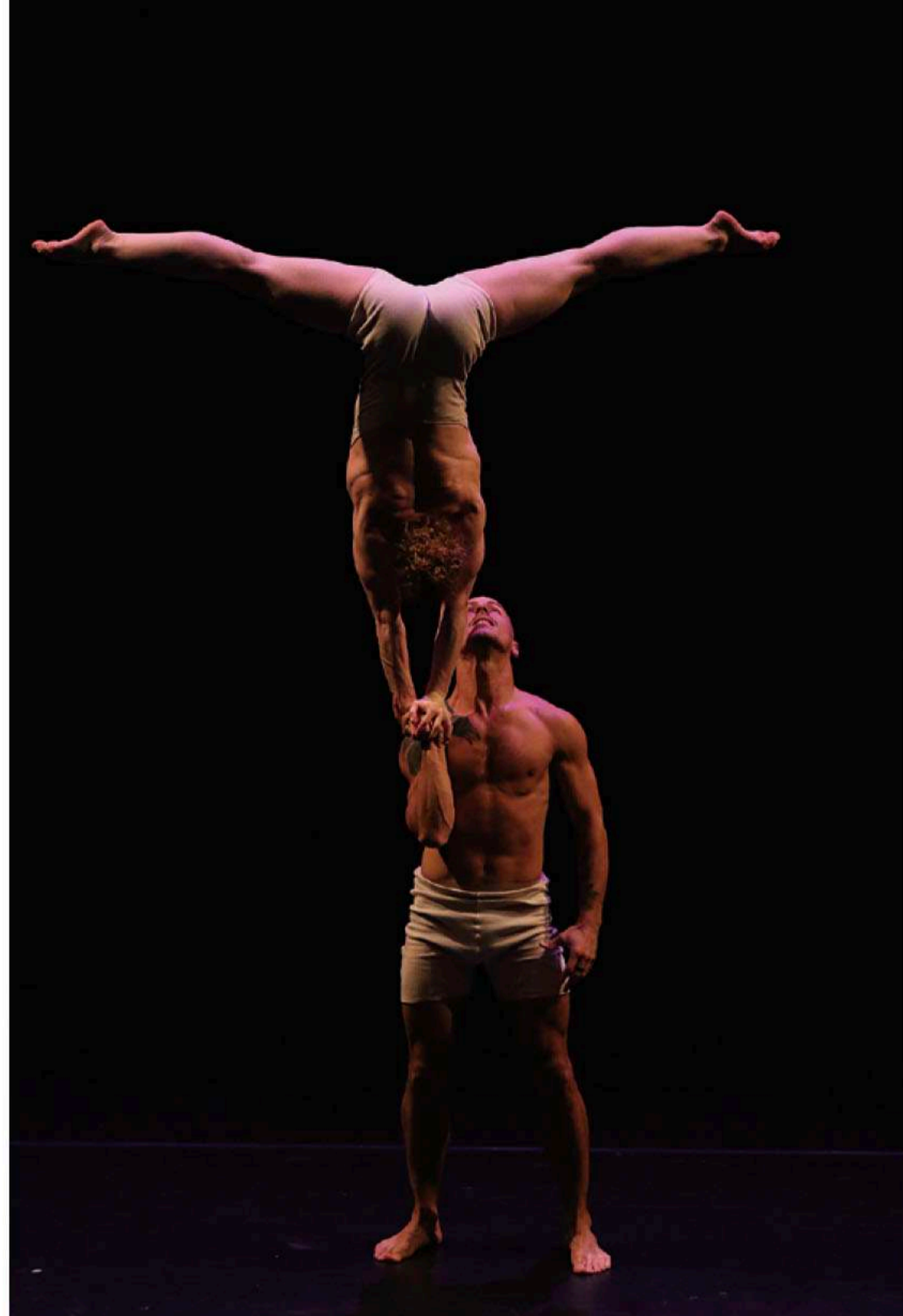
- 鳥の劇場運営委員会/会長:長尾裕昭(鳥取市西商工会会長)
副会長:木谷清人(公益財団法人鳥取市文化財団理事長)
委員:五島朋子(鳥取大学地域学部附属芸術文化センター教授)
山根大樹(Trees Co.,Ltd代表・Café SOURCE KOREA代表理事)
中村彩(株式会社nido代表取締役社長)
中島諒人(特定非営利活動法人鳥の劇場代表理事)
監事:荒金啓介(山陰合同銀行)

【大人のための上演】

- ◆『剣を鍛える話』 鳥の劇場[鳥取] ※演劇
9月6日(木)・7日(金)・8日(土)・9日(日)
会場/鳥の劇場(劇場) 上演回数/4回 来場者数/計267人
◇公演後アフタートーク
9月6日(木)・7日(金)・9日(日)
会場/鳥の劇場(スタジオ) 開催回数/3回 参加者数/計73人
- ◆『小さいサーカス"KNOT"ーきずな』 NIKKI&JD[イギリス]
※アクロバットダンス
9月15日(土)・16日(日)
会場/鳥の劇場(劇場) 上演回数/2回 来場者数/計193人
◇公演後アフタートーク
9月15日(土)
会場/鳥の劇場(劇場) 開催回数/1回 参加者数/30人
- ◆『お客さんたち』 Project White(プロジェクト・ホワイト)[韓国]
※演劇
9月22日(土)・23日(日)
会場/勝谷体育館 上演回数/2回 来場者数/計89人
◇公演後アフタートーク
9月23日(日)
会場/勝谷体育館 開催回数/1回 参加者数/40人
- ◆『THE RELIGION OF BIRDSー鳥の仏教ー』 BATIK[東京]
※ダンス
9月22日(土)・23日(日)
会場/鳥の劇場(劇場) 上演回数/2回 来場者数/計159人
◇公演後アフタートーク
9月22日(土)
会場/鳥の劇場(スタジオ) 開催回数/1回 参加者数/37人

【若い人たちによる上演】

- ◆アジア・ダンスの芽
香港若手振付家2組と八頭高校書道部with康本雅子
9月8日(土)・9日(日)
『黄ミドリと裏ミドリの乱』
鳥取県立八頭高校書道部with康本雅子[鳥取]
『Along』 ヒュー・チョウ他[香港]
『見えないまま』 ケイティ・ヤウ[香港] の3本立て ※ダンス
会場/勝谷体育館 上演回数/2回 来場者数/計128人
◇公演後アフタートーク
9月8日(土)
会場/勝谷体育館 開催回数/1回 参加者数/35人
- ◆『極東ラブストーリー』 鳥取の高校生×目黒大路[鳥取]
※ミュージカル
9月15日(土)・16日(日)
会場/議場劇場 上演回数/2回 来場者数/計177人
◇公演後アフタートーク
9月15日(土)
会場/議場劇場 開催回数/1回 参加者数/78人
- ◆『主なき土地』 韓国芸術総合学校[韓国] ※演劇
9月22日(土)・23日(日)
会場/鹿野往来交流館「童里夢」
上演回数/2回 来場者数/計84人



【大人も楽しめる子どものための上演】

- ◆『おじいちゃんのちいさなひみつ』 劇団うりんこ[愛知] ※演劇
9月16日(日)・17日(月祝)
会場/勝谷体育館 上演回数/2回 来場者数/計114人
- ◆『どろぼうがっこう』 鳥の劇場[鳥取] ※演劇
9月17日(月祝)
会場/鳥の劇場(劇場)
(校庭にて上演予定でしたが雨天のため屋内に変更して実施)
上演回数/1回 来場者数/306人

【障がいのある人たちによる上演】

- ◆『第四の壁』 TBTB[アメリカ] ※演劇
9月8日(土)・9日(日)
会場/鹿野往来交流館「童里夢」
上演回数/2回 来場者数/計96人
- ◆『「ロミオとジュリエット」から生まれたものー2018』 じゆう劇場[鳥取]
※演劇
9月15日(土)・16日(日)
会場/鹿野往来交流館「童里夢」
上演回数/2回 来場者数/計168人

【コミュニティとともに作った作品】

- ◆『お年寄りのダンス』 れんげ草(振付:康本雅子)[鳥取] ※ダンス
9月8日(土)
会場/鳥の劇場(スタジオ) 上演回数/1回
(※オープニング・パーティー内)
- ◆お年寄りのお年寄りによるみんなのための演劇『臉の母』
公募で集まったお年寄りの方たち[鳥取] ※朗読劇
9月17日(月祝)
会場/鹿野往来交流館「童里夢」
上演回数/1回 来場者数/52人
◇公演後アフタートーク
9月17日(月祝)
会場/鹿野往来交流館「童里夢」 開催回数/1回 参加者数/42人



【演劇×子どもラボ】

◆産み育てを考えるワークショップ 講師:阿部初美
9月7日(金)・8日(土)・9日(日)・14日(金)・15日(土)・16日(日)・17日(月祝)
会場/くるびや劇場 開催回数/7回 参加者数/計28人

◆公開!小鳥の学校 講師:上田假奈代・大岡淳
9月17日(月祝)
会場/くるびや劇場 開催回数/1回 来場者数/40人

◆おやこ演劇ミーティング(フリンジプログラム)
9月22日(土)・23日(日)
『三びきやぎのからがらどん』
構成・演出・小道具:柴田智之 音楽:鳥一匹
会場/くるびや劇場 上演回数/2回 来場者数/計128人

『舌切り雀』
作:平田オリザ 演出:ロラン・グッドマン 平田オリザ 出演:山内健司
会場/くるびや劇場 上演回数/2回 来場者数/計88人

『子ゾウのポボンとお月さま』
作・演出:鈴木アツト 出演:劇団印象-indian elephant
会場/くるびや劇場 上演回数/2回 来場者数/計96人

『妖怪屋敷 de 妖怪ショー!!』
出演:あびす大黒座
会場/議場劇場 上演回数/2回 来場者数/計159人

『まちなかかみしばい』
出演:端田新菜
会場/鹿野町内(神出鬼没) 来場者数/計232人

9月22日(土)
『プレゼンテーションと意見交換会』
演劇の作り手と各地域の子ども劇場などの媒介者が集い、意見を交換しました。一般にも公開しました。
会場/くるびや劇場 開催回数/1回 参加者数/25人

【写真企画】

◆小鳥の家族×鳥の演劇祭11～劇場に泊まるキャンプ編～
撮影:水本俊也(写真家)
9月8日(土)・15日(土)・16日(日)・22日(土)・23日(日)
会場/鳥の劇場 撮影場所/鹿野町内各所
撮影家族数/10組(テント泊:家族5組+スタッフ3組)
参加者数/計51人

【青山学院大学 鳥取分室】

◆青山学院大学社会情報学部による「キッズ・サマー・ワークショップ」
9月2日(日)
会場/青山学院大学社会情報学部附置社会情報学研究センター 鳥取分室
(鳥取分室に集合した後、「しかの心」及び「しかの宿 本田中家」に分かれてワークショップを実施)
開催回数/全12回(30分入れ替え制)



【シンポジウム】

◆session1『外国における実践 アメリカでの事例を中心に考える』
トーカー:ニコラス・ヴィセリ(TBTB芸術監督)
聞き手:中島諒人(鳥の劇場芸術監督)
9月9日(日)
会場/鳥の劇場(スタジオ) 開催回数/1回 参加者数/22人

◆session2『日本における実践 舞台芸術を身近なものに』
トーカー:栗栖良依(NPO法人スローレーベル ディレクター)
鈴木京子(国際障害者交流センター ビッグ・アイ エグゼクティブ・アーツ・プロデューサー)
聞き手:川井田祥子(鳥取大学教授)
9月15日(土)
会場/鳥の劇場(スタジオ) 開催回数/1回 参加者数/34人
主催:鳥取大学地域学部

【イベント】

◆オープニング・パーティー
9月8日(土)
会場/鳥の劇場(ホワイエ) 開催回数/1回 参加者数/111人

◆ナイトイベント
9月15日(土)・16日(日)
会場/鳥の劇場(ホワイエ)・光輪寺本堂
◇屋台村 協力/アカリ・ブリューイング あかり本願衆 酒うらら
カレーハウスムーナ
◇怪談ばなし 協力/光輪寺 とっとり・民話を語る会
◇星空観察 協力/鳥取天文協会
◇8ミリ映像上映 協力/いんしゅう鹿野まちづくり協議会
鹿野名画座 HOSPITALE
◇盆踊り (校庭のやぐらを囲んで行う予定でしたが雨天のため
屋内にて実施)
◇テント宿泊

◆クローゼット・パーティー
9月23日(日)
会場/鳥の劇場(ホワイエ) 開催回数/1回 参加者数/161人

【週末だけのまちのみせ7th】

9月8日(土)・9日(日)・15日(土)・16日(日)・17日(月祝)・22日(土)・23日(日)
会場/鹿野町内

◆白雪姫ハウス 『白雪姫』公演の展示カフェ
「毒りんごケーキ」等作品にちなんだメニューを提供
協力/café-nee 来場者数/429人

◆老貴婦人ハウス 『老貴婦人の訪問』公演の展示カフェ
「貧乏具なし?カレー」等作品にちなんだメニューを提供
協力/café-nee 来場者数/225人

◆すてきな三人ぐみハウス 『すてきな三にんぐみ』公演の展示ハウス、
衣装試着等 来場者数/495人

◆イワン食堂 『イワンのばか』公演をモチーフにした地元鹿野食材
使用の食堂(同会場にて鳥取県への移住定住についての展示あり)
協力/café-nee 来場者数/89人

◆小鳥の家族～写真と因州和紙のお店～
鳥取県八頭町出身、横浜在住の写真家・水本俊也さんの写真を
鳥取特産の因州和紙にプリントした作品を展示
来場者数/337人

◆とっとり河原町西郷地区・青谷の文化展
青谷町の因州和紙や石工・川六の作品写真の展示、河原町西郷地区
の取り組みや工芸家の作品等を紹介
来場者数/167人

◆『みんなでGO!合作5・7・GO!』ことばあそびワークショップ
9月8日(土)・9日(日)・15日(土)・16日(日)・17日(月祝)・22日(土)
会場/しかの心・熊谷邸・田中邸 開催回数/6回
参加者数/計25人

◆山陰三ツ星マーケット
9月16日(日)・22日(土)・23日(日)
(※15日(土)は台風のため実施せず)
会場/鹿野町旧製紙工場跡地

◆鹿野わったいな祭
地元鹿野町のお祭りが鳥の演劇祭三週目に併催
9月21日(金)・22日(土)・23日(日)
会場/鹿野町内

【その他】

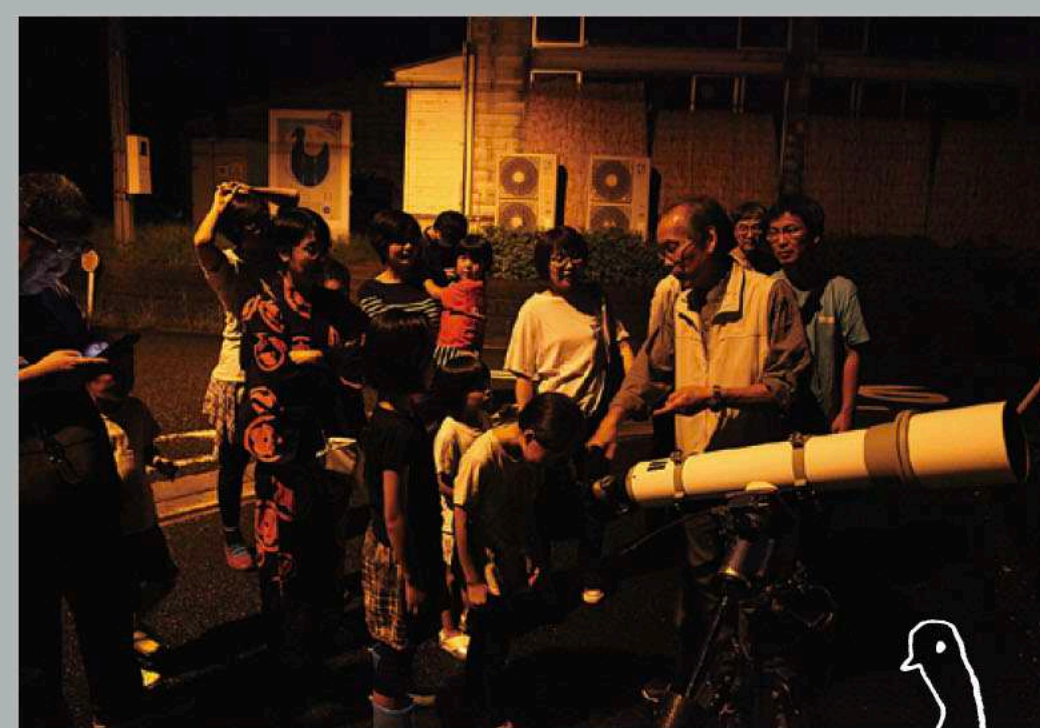
◆『鳥の演劇祭11とは?展』
鳥取市内のギャラリーにて「鳥の演劇祭11」紹介展示
8月25日(土)～9月19日(水)
会場/ギャラリー鳥たちのいえ 来場者数/計46人

◆鹿野ぶらぶら町歩き
9月8日(土)・15日(土)・16日(日)
協力/ぶらっとしかのガイドの会 会場/鹿野町内
開催回数/3回 参加者数/計29人



◆鳥のカフェ
9月8日(土)・9日(日)・15日(土)・16日(日)・17日(月祝)・22日(土)・23日(日)
ランチ、スイーツ、ドリンク等を提供 協力/café-nee
会場/鳥の劇場 勝谷体育館 議場劇場
9月6日(木)・7日(金)
スイーツ、ドリンク等を提供 協力/suncl 会場/鳥の劇場
9月8日(土)・9日(日)・15日(土)・16日(日)・17日(月祝)・22日(土)・23日(日)
スイーツ、ドリンク等を提供 協力/suncl 会場/くるびや劇場

◆鳥の演劇祭セレクトショップ
鳥取の工芸品や食べ物、アートワーク、鳥グッズ等を販売
9月6日(木)・7日(金)・8日(土)・9日(日)・14日(金)・15日(土)・16日(日)・17日(月祝)・22日(土)・23日(日祝)
会場:鳥の劇場



鳥の演劇祭 11



03 じゆう劇場

■稽古期間／6月8日(金)～2019年1月18日(金) ※実施回数／36回

■参加者数／14人

2018度は計14名の劇団員(鳥の劇場団員を除く)が集まりました。そのうち10名は昨年から継続して参加しました。今年度も応募者を県内在住に限定せず近隣県からも参加できるようにした為、大阪から3名参加しました。また、一般の健常者が2名出演者として加わり、共生社会の実現を目指すじゆう劇場として、より理想的な形となりました。

作品は2015年度に制作、2017年度にも再演しフランス・ナント市で喝采をあげた『「ロミオとジュリエット」か

ら生れたもの』(原作:W.シェイクスピア)です。新しいシーンを盛り込み、劇中で歌われる歌も変更しました。

今年は新たに短編作品2作品も創作し、県内出張公演も実施しました。今までの作品とは違う会話劇で、より専門的な俳優のスキルが必要となる作品です。じゆう劇場のメンバーの中で興味のある俳優を募り、より専門的で集中的な稽古を行い、鳥取県内の5会場での上演を行いました。

【主催】鳥の劇場運営委員会
【協力】鳥取県
【助成】平成30年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業

【短編作品上演】

『いらっしゃいませ、ウォルマートへ』

脚本／サミュエル・ハンター

『たぶん、朝食の後に』

脚本／ベガ・プランステッター

上演回数／5回 来場者数／計357人

■構成・演出／中島諒人 齊藤頼陽
■出演／井谷優太 武内美津子 島田ひかる 福角宣弘 福角幸子 齊藤頼陽 高橋等 安田茉耶

〈米子公演〉

■公演日程／7月17日(火)
■会場／手話カフェSign
■来場者数／25人
■アフタートーク参加者数／25人

〈鳥取公演〉

■公演日程／7月18日(水)
■会場／鳥取県庁 議場
■来場者数／97人
■アフタートーク参加者数／83人

■公演日程／7月19日(木)
■会場／鳥取大学芸術文化センター
■来場者数／51人
■アフタートーク参加者数／47人

〈倉吉公演〉

■公演日程／10月10日(水)
■会場／鳥取短期大学・看護大学
■来場者数／87人
■アフタートーク参加者数／79人
■公演日程／10月13日(土)
平成30年度 鳥取県障がい者舞台芸術祭
「あいサポート・アートとっとり祭り」で上演
■会場／倉吉未来中心 セミナールーム3
■来場者数／97人
■アフタートーク参加者数／95人



【国内ツアー】 『「ロミオとジュリエット」から生まれたもの-2018』

2017年フランス・ナント市で大喝采をあげた作品を国内3か所(鳥取県・高知県・東京都)で上演しました。

上演回数／6回 来場者数／計685人

■構成・演出／中島諒人 齊藤頼陽
■出演／井谷優太 北村未菜 島田ひかる 武内美津子 仲野真由美 西垣伸子 福角幸子 福角宣弘 三好眞比郎 和田尚也 齊藤頼陽 高橋等 (米子公演のみ)藤木恵子 宮内ゆかり 矢吹誠浩 (高知・東京公演)後藤詩織

〈鳥取公演〉

■公演日程／9月15日(土)・16日(日)
※「鳥の演劇祭11」のプログラムの一環として上演
■会場／鹿野往来交流館「童里夢」
■上演回数／2回 ■来場者数／計168人

〈米子公演〉

■公演日程／9月29日(土)
■会場／米子市公会堂
■上演回数／1回 ■来場者数／83人
■アフタートーク参加者数／64人

〈高知公演〉

■公演日程／2019年1月25日(金)
※「いろいろを楽しむ演劇プロジェクト2018招聘公演 ～四国初上演!～」にて上演
■会場／高知県立美術館ホール
■上演回数／1回 ■来場者数／181人
■アフタートーク参加者数／48人

〈東京公演〉

■公演日程／2019年2月1日(金)・2日(土)
※「とうきょうの真ん中で“地方暮らし・子育て”を考える ～ととりの場合～」にて上演
■会場／東京芸術劇場シアターウエスト
■上演回数／2回 ■来場者数／計253人
■アフタートーク参加者数／計225人

2016年度の『じゆう劇場版「銀河鉄道の夜」』の製作活動を追ったドキュメンタリー映画の上映も実施しました。

◆ドキュメンタリー映像作品『じゆう劇場の隣さ』上映
■上映日／2019年2月2日(土)・3日(日)
■上映回数／2回 ■来場者数／計25人
撮影・編集・監督／山崎樹一郎
出演／井谷優太 後藤詩織 國石百加 島田ひかる 西垣伸子 西野八重子 樋引あすか 福角幸子 福角宣弘 三好眞比郎 矢吹誠浩 齊藤頼陽 高橋等 中島諒人



04

鳥の劇場以外での上演

【海外公演】

■10月20日(土)・21日(日) 第25回BeSeTo演劇祭 韓国公演『剣を鍛える話』
会場／国立アジア文化殿堂(韓国・光州) 来場者数／269人

【国内公演】

■2019年1月13日(日) 愛媛・新居浜公演 おやかで楽しめる演劇『どろぼうがっこう』
会場／新居浜市総合文化施設あかがねミュージアムあかがね座 来場者数／160人



撮影／BeSeTo委員会

05

トリジユク

トリジユクは、2018年春に開校する県内初の義務教育学校・鹿野学園の新設科目「表鷲科」の骨組みを作るべく2017年より始まった事業です。初年度は、日本財団にもご支援いただきました。2018年より演劇を使ったワークショップを全学年に実施。9年間の積み上げで、子ども達の自己肯定感、自己効力感を高め、メタ認知能力を伸ばしていきます。

青谷高校でのトリジユク実施も、2017年度より始まりました。鹿野学園でのトリジユクを高校生向けにアレンジし実施していますが、ねらいは同じです。学校教育に、劇場はどんな支援ができるのか、演劇は教育に対してどんな働きかけができるのか。教育アドバイザー・青山学院大学の荻宿敏文教授にご助言をいただきながら、通常のアウトリーチ活動よりもさらに深く教育と関わる取り組みとなっています。

鹿野学園「表鷲科」表現ワークショップ

■鹿野学園1年(25人)

6/4(月) 表現ゲーム(集まってポン、足ジャンケンKING、だるまさんが〇〇した、猛獣狩り)
6/5(火) 省察+表現ゲーム(やりたいゲームを決めてやってみよう)



■鹿野学園2年(20人)

6/11(月) 表現ゲーム(集まってポン、体ジャンケンKING、だるまさんが〇〇した、猛獣狩り)
6/12(火) 省察+表現ゲーム(だるまさんが〇〇した)



■鹿野学園3年(35人)

6/25(月) 表現ゲーム(体ジャンケンKING、相手を察知! さっちゃんゲーム!、くだもの集まってポン、早並びポン、勝手にランキング!! 面白いランキングをつけよう!)
6/26(火) 省察



■鹿野学園4年(21人)

6/6(水) 表現ゲーム(足ジャンケンKING、集まってポン、名前でシャキーン!真似してシャキーン!、相手を察知!さっちゃんゲーム!、ここは不思議の森…みんなでひとつをつくるの森…、4人で一つの「何かの楽器」)
6/7(木) 省察+演劇WS(さらに面白く発表しよう(別の楽器を選んでもよし)+楽器の性格をつけて表現してみよう!)



【期間】5月14日(月)～2019年1月23日(水)

【対象】鳥取市立鹿野学園全学年・
鳥取県立青谷高等学校地域環境芸術コース
3年生

【会場】鳥取市立鹿野学園流沙川学舎・王舎城学舎
鳥取県立青谷高等学校

【参加人数】(延べ)1,401人

【主催】鳥の劇場運営委員会 鳥取県

【共催】鳥取市 特定非営利活動法人鳥の劇場

【協力】青山学院大学社会情報学部附置社会情報学
研究センター学習コミュニティデザイン研究ユニ
ット NPO法人いんしゅう鹿野まちづくり協議会
鳥取大学地域学部附属芸術文化センター

【教育アドバイザー】荻宿俊文
(青山学院大学社会情報学部 教授)

■鹿野学園5年(20人)

- 5/14(月) 表現ゲーム(集まってポン、「しかし」ラリー、「しかし」リレー、5枚リレー)+カタルタ(ことばドラフト会議)
- 5/15(火) 省察+カタルタ「できた話を劇にしてみよう!」
- 6/18(月) 表現ゲーム(みんなで一つの〇〇)+ドリコマ
- 6/19(火) 省察+ドリコマ
- 10/2(火) 演劇WS(いろんな「見る」をやってみよう、「五感」のうち2つをやってみよう、「五感」の表現をやってみよう、場面を作ろう)
- 10/3(水) 省察+演劇WS(「知らない」未知との遭遇。五感をフル動員して。)
- 12/4(火) 表現ゲーム+4年生時と5年生時の表現WS振り返り+表現WSのおもしろさを劇にしてみよう!
- 12/5(水) 省察+新5年生へのメッセージとして「つくった劇を撮影しよう」



■鹿野学園6年(37人)

- 6/5(火) 「日影劇団」による表現ゲーム(集まってポン、だるまんが〇〇した、「しかし」ラリー)+演劇WS「脳内会議を考えよう!」
- 6/6(水) 省察+演劇WS「脳内会議を考えよう!」
- 10/1(月) 演劇WS(オオカミとヒツジ、ドリコマ)
- 10/2(火) 省察+ドリコマ



■鹿野学園7年(22人)

- 6/12(火) 「日影劇団」による表現ゲーム(集まってポン、だるまんが〇〇した、「しかし」ラリー&リレー)+演劇WS「脳内会議を考えよう!」
- 6/13(水) 省察+演劇WS「脳内会議を考えよう!」
- 11/27(火) 表現ゲーム(椅子とり鬼、自分の名前ポーズ、みんなで一つの〇〇)+演劇WS「ヤギに伝えよう」
- 11/28(水) 省察+演劇WS「ヤギに伝えよう」



■鹿野学園8年(28人)

- 5/15(火) 表現ゲーム(名前ポーズ、見立ててみよう)+演劇WS(スリッパで風景①、スリッパで風景②当ててみよう、スリッパで日常生活を演じよう)
- 5/16(水) 省察+演劇WS「スリッパ先輩を送る会」を開催しよう
- 6/26(火) 「日影劇団」による表現ゲーム(集まってポン、だるまんが〇〇した、「しかし」ラリー&リレー)+演劇WS「脳内会議を考えよう!」
- 6/27(水) 省察+演劇WS「脳内会議を考えよう!」
- 10/10(水) 演劇WS(4Wゲーム、絵コンテ)おもしろ原作をつくって「ドリコマ」作品にする
- 10/11(木) 省察+ドリコマ撮影&鑑賞会
- 11/15(木) 表現ゲーム(椅子とり鬼)+カタルタ(架空の偉人の他己紹介)
- 11/16(金) 省察+発表



■鹿野学園9年(36人)

- 6/19(火) 表現ゲーム(椅子とり鬼、「しかし」ラリー)+カタルタ(嘘まじりの自己紹介、架空の偉人の他己紹介)
- 6/21(木) 省察+発表



青谷高校表現ワークショップ

■地域環境芸術コース3年生(10人)

- 6/13(水) コミュニケーションゲーム(エアボール回し、古今東西ゲーム、「しかし」ラリー、「しかし」リレー、社長ゲーム、カタルタ自己紹介)
- 6/27(水) 「きつと」「まさか」ラリー・リレー、ジェスチャーゲーム
- 7/18(水) 省察+合作川柳
- 11/21(水) 前期の振り返り+ジェスチャー伝言ゲーム
- 12/5(水) リード&フォロー、AさんBさん、ドリコマ
- 12/12(水) 椅子とり鬼、名前鬼、ドリコマ
- 12/19(水) しかしリレー、4Wゲーム
- 2019年
- 1/9(水) 絵コンテ、ドリコマ
- 1/16(水) ドリコマ2作品撮影
- 1/23(水) ドリコマブラッシュアップ+1年間の振り返り



■5月26日(土) トリジューク成果報告会

- 会場/鳥取市立鹿野学園王舎城学舎
- 8月20日(月) 表驚科教職員研修分析報告(鳥取市教育委員会)
- 会場/鳥取市立鹿野学園王舎城学舎
- 8月21日(火) 「青山学院大学社会情報学部附属社会情報学研究中心鳥取分室」開所式 会場/鳥取市鹿野町旧八百屋bar跡地
- 8月29日(水) 青学と鳥劇交流WS 会場/鳥の劇場
- 9月2日(日) 青学LCDによる「小・中学生・ファミリー向け連続WS」 会場/青山学院大学社会情報学部附属社会情報学研究中心鳥取分室

2018年度トリジュークについて

おかげさまで、昨年度実践校からの理解と要望も増え、青谷高校では回数が全10回に、鹿野学園では対象を全学年に広げ、しかも回数も増やして実施することになった。*青谷高校では〈1回2校時〉、鹿野学園では〈1ユニット=2日間で4校時。1日目に芸術表現体験活動(WS)、2日目に省察&発表。〉という内容。

まずは、それぞれの年齢の発達段階や学校の実情に合わせた【WSメニューづくり】を内部で分担(1~2年/3~4年/5年/6~9年/青谷高校)。学校との連携もより深まっていた。

【鹿野学園の場合】

1. 学年担当の2人(=ファシリテーター)がメニューたたき台をつくる。
2. 鳥劇内で、GF(グループファシリテーター)とシュミレーションし、修正。
3. 学校へ、担当の先生方にメニューを提案し、適宜修正。
4. 〈WS〉実施。
5. 担任の先生や〈省察〉を進行する先生と打ち合わせ。
6. 〈省察〉に使うための、写真や動画の編集。
7. 〈省察&発表〉

主役は子どもたち。WSメニューは思わずやってみたくなる活動を心がけ、翌日の省察では子どもたちが無意識にやっていた〈いい所〉を認め、もっとやってみて発表しあう。子どもたちを看取りながら、先生方とともに授業をつくりあげる流れができていった。

課題としては、人員配置と時間配分。〈いい所〉レポートが盛りだくさんになりすぎる傾向。情報過多だと肝心なところが結局伝わらない。人員配置に関しては、来年度は実施学年がなるべく被らないようにする。徹夜作業で疲弊しては子どもたちと健全に向き合えない。ファシリテーターやGFのノウハウをもっと共有して、負担を分散していきたい。

子どもたちと出会いながら、私たちが学ばせてもらった1年。来年度はさらに実施回数が増える。苅宿先生の指導助言や青学LCDによるWS実施という運営協力もいただきながら、子どもたちとともに成長していきたい。

(俳優・コーディネーター
中川玲奈)



06

アウトリーチ活動

地域の学校や病院などに積極的にアウトリーチを行いました。「地域に演劇力お届け事業(※)」として、秋の学習発表会シーズンには、児童生徒に演じることについての基礎的な考えや技術を伝授する機会を作ることができました。また特別支援学校の児童生徒や重度の難病の人たちに対しても、演劇の楽しさを伝えることができました。コミュニティーの中の劇場の役割、演劇の専門家のいる劇場が持つ力を、一般の人知ってもらいたい機会であると考え、今後も可能な限り積極的に取り組んでまいります。

教育現場での講座・ワークショップ

- 保育園・幼稚園 / 美哉幼稚園上演とワークショップ、大山町立名和さくらの丘保育園表現ワークショップ、鳥取市立鹿野幼児センターこじか園読み聞かせ
- 小学校 / 岡山市立朝日小学校「学校でひらく舞台芸術教室」(全校生徒を対象にした演劇やダンスの創造体験授業)、鳥取市立逢坂小学校学習発表会支援(※)、鳥取市立鹿野学園学習発表会支援(※)、鳥取市立美和小学校ワークショップと講演「あそぶ、つくる、未来にむけて」
- 中学校 / 鳥取市立鹿野学園選択授業「演劇」コース講師(※)、湯梨浜町立北浜中学校アドバイス、鳥取市立気高中学校総合学習「生き方フォーラム」にて講話
- 高校 / 鳥取県立鳥取緑風高等学校社会人講師
- 特別支援学校 / 鳥取県立鳥取聾学校表現ワークショップ、鳥取県立白兎養護学校表現ワークショップ(※)
- 大学 / 鳥取大学授業、美作短期大学授業、関西学院大学授業
- その他 / 赤碓こども園「アートで育てる」(職員向けワークショップ)、平成30年度全日本私立幼稚園連合会中国地区私立幼稚園教育研修会(幼稚園の先生向けワークショップ)、読み聞かせグループ「さくらんぼ」(鳥取市鹿野町)、読み聞かせグループ「コスモス」楽器演奏(鳥取市鹿野町)、国立病院機構鳥取医療センター読み聞かせ



専門性のアウトリーチ

- 6月8日(金)・9日(土) 第71回鳥取県東部地区高等学校演劇発表会
審査員:齊藤頼陽 会場/とりぎん文化会館梨花ホール
- 6月16日(土) 映画『ウィンストン・チャーチル』〜ヒトラーから世界を救った男〜公開記念 鳥の劇場 演出家・中島諒人トークイベント
会場/豊岡劇場 大ホール(兵庫県)
- 7月23日(月)〜30日(月) 利賀演劇人コンクール
審査員:中島諒人 会場/富山県利賀芸術公園
- 8月7日(金) 平成30年度鳥取県教職員3年目研修
講師:中島諒人 会場/倉吉体育文化会館
- 8月25日(土) 大地の芸術祭「表鰯科表現ワークショップ」
講師:中島諒人
シンポジウム明日へのフォーラム「もうひとつの学び、もうひとつの生き方〜アートによる学びの可能性〜」
ゲストスピーカー:中島諒人 会場/三省ハウス体育館(新潟県)
- 9月26日(水) 第1回障害者文化芸術活動推進有識者会議
参加:中島諒人 会場/TKPガーデンシティPREMIUM神保町プレミアムボールルーム(東京都)
- 10月23日(火) 第2回障害者文化芸術活動推進有識者会議
参加:中島諒人 会場/TKPガーデンシティPREMIUM神保町プレミアムガーデン
- 11月10日(土) 平成30年度鳥取県教育委員会高等学校PTA指導者研究大会 講演「創る、学ぶ、共に育つ」、ワークショップ「演劇ゲームと演劇創作体験」
講師:中島諒人 会場/琴浦町生涯学習センター「まなびタウンとうはく」

- 12月18日(火) 第3回障害者文化芸術活動推進有識者会議
参加:中島諒人 会場/TKPガーデンシティPREMIUM神保町プレミアムガーデン
- 2019年2月6日(水) 平成30年度「みんなで学ぶ人権講座」
講師:中島諒人 会場/鳥取市青谷町総合支所
- 3月6日(水) 東京芸術劇場「障害とパフォーマンス・アーツ」シンポジウム「多様で豊かな舞台芸術の創造をめざして」
登壇:中島諒人 会場/東京芸術劇場シフォニースペース
- 3月14日(木) 鳥取学出前講座「鳥取をアートの拠点に〜地方からの日本改造」
講師:中島諒人 会場/鳥取県関西本部交流室



小作品の上演

- 8月21日(火) 国立病院機構鳥取医療センター来場観劇『3びきのやぎのがらがらどん』
会場/鳥の劇場 来場者数/21人
- 8月22日(水) 平成30年度全日本私立幼稚園連合会中国地区私立幼稚園教育研修会『3びきのやぎのがらがらどん』
会場/米子市文化センター 来場者数/500人
- 11月2日(金) 『どろぼうがっこう』
会場/美哉幼稚園 来場者数/141人
- 11月6日(火) 『どろぼうがっこう』
会場/八頭町立船岡保育所 来場者数/155人
- 2019年3月7日(木) 『がまくんとかえるくん』
会場/鳥取短期大学附属こども園 来場者数/184人



07 その他の活動

滞在制作

- 余越保子作品『shuffleyamamba』
滞在制作期間/6月13日(水)~7月1日(日)
ワークショップ/6月20日(水) 会場/鳥の劇場[スタジオ]
- コンタクト・インプロビゼーショングループC.I.co. 勝部ちこ 鹿島聖子 『ARTIST IN RESIDENCE』
滞在制作期間/2019年2月9日(土)~2月15日(金)
公開練習/2月11日(月祝)~13日(水) 会場/鳥の劇場[スタジオ]

受託事業

- 大伴家持生誕1300年記念フェスティバル鳥取
音楽イベント朗読劇『祝い歌~大伴家持誕生』
公募で集まった地元の方々や市民合唱団、宮ノ下小学校・国府東小学校の児童への演出、合唱指導、朗読劇指導
10月20日(土) 会場/国府町コミュニティセンター多目的ホール
- CAMP on PARADE グランドツアー
親子で演劇ワークショップ『3びきのやぎのらがらどん』
11月28日(水)~12月17日(月) 会場/鳥の劇場
12月8日(土) 『グランドツアー鳥取』たき火を囲んでのお披露目会
会場/鳥の劇場
- あかがねミュージアム冬のイベント
『鳥の劇場がやってくる!鳥取県からやってくる!』
『鳥の劇場』のこことや鳥取のこと、1月13日上演『どろぼうがっこう』のことなどを、見て・さわって・記念写真が撮れる特別展示を開催。実際の舞台衣装や小道具の展示、「どろぼうがっこう」と並んで鳥の劇場の子ども向け作品の代表作である『すてきな3にんぐみ』の舞台衣装の試着・記念撮影コーナーなど(※上演については活動報告4に記載)
12月5日(水)~2019年1月14日(月祝)
会場/あかがねミュージアムにはまギャラリー
1月13日(日)鳥の劇場カフェトーク「中島さん、鳥の劇場のこと、教えてください!」、おやこで楽しめる表現ワークショップ
会場/あかがねミュージアムCuカフェ
- とうきょうの真ん中で「地方暮らし・子育て」を考える~とっとりの場合~じゆう劇場『「ロミオとジュリエット」から生れたもの-2018』上演、ドキュメンタリー映像作品『じゆう劇場の隣』上映、ミニ演劇『がまくんとかえるくん』上演、読み聞かせ、紙芝居など
2019年2月1日(金)・2日(土)・3日(日)
会場/東京芸術劇場シアターウエスト



客演

- 演奏会ミュージックエコー 出演:松本智彦
11月18日(日) 会場/鳥取福音ルーテル教会
- 第16回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2018東部地区イベント鳥取産
創曲~地元作曲家たちによる新作品一挙公開~作曲工房「ハバゲノ」
演奏会 作曲:武中淳彦 朗読:中垣直久
12月8日(土) 会場/とりぎん文化会館
- 映画「新しき民」上映会 主演:中垣直久
脚本・監督/山崎樹一郎(2014年制作)
12月22日(土) 会場/奈義町文化センター大ホール

大学連携

- 鳥取大学授業 地域学部集中講義 4月16日(月)~7月19日(木)
(計15時間) 会場/鳥取大学 参加者数/15名
- 北海道教育大学インターンシップ 8月20日(月)~9月26日(水)
(鳥の演劇祭11にて実施) 会場/鳥の劇場 参加者数/2名
- 鳥取大学アートマネジメント講義 12月4日(火)
講師/松本智彦 会場/鳥取大学 参加者数/2名

劇場連携

- 静岡県舞台芸術財団 照明スタッフ(生田正)派遣
12月24日(月)~27日(木)・2019年1月4日(金)~14日(月)
会場/静岡芸術劇場

その他

- ボランティア集会 4月14日(土)
会場/鳥の劇場 参加者数/4名
- サポーター報告会
7月14日(土) 会場/鳥の劇場 参加者数/44名
- 鳥取県立米子東高等学校土曜活用事業
12月22日(土) 会場/鳥の劇場 参加者数/11名
- まちなかミニミニ映画館! 会場/ギャラリー鳥たちのいえ
2019年1月18日(金)・26日(土)
『ル・アープルの靴磨き』来場者数/計13人
3月15日(金)・16日(土) 『希望のかなた』来場者数/計12人
- 鳥の劇場 presents 『トリラジ』 毎週土曜日16:30~17:00
RADIO BIRD FM鳥取(82.5fm)
- とっとりプロボノ 公益財団法人とっとり県民活動センターが実施するプロボノプロジェクトを実施していただきました。ヒアリングなどで地域の方々にご協力いただきました。ありがとうございました。プロボノワーカーの方もお世話になりました。今後の活動の参考にさせていただきます。



見学・視察

- 西和賀町文化創造館銀河ホール/1人
- 豊岡市役所/2人
- 日高町商店街連合会/4人
- 新潟県職員+鳥取県障害福祉課/5人
- 個人での劇場見学/303人 年間 計315人

鳥の劇場「イワンのばか」上演(新日本海新聞社など後援)は26~29日(26、27日は学校招待日)、5月1~6日、鳥取市鹿野町鹿野の鳥の劇場で。いざれも午後2時開演。大人2千円、18歳以下千500円、中学生以下無料。問い合わせは電話067(94)3268、観劇課へ。

子どもたちにも響いた「問いの力」

◆鳥の劇場「イワンのばか」◆

鳥の劇場「イワンのばか」は、鳥の劇場の代表作品として、鳥の劇場の歴史の中で最も愛されている作品の一つです。この作品は、鳥の劇場の創始者である中垣直久氏が、自身の体験をもとに創作された作品です。鳥の劇場の活動を通じて、子どもたちに「問いの力」を伝えることが、この作品の大きな目的です。

鳥の劇場「イワンのばか」は、鳥の劇場の代表作品として、鳥の劇場の歴史の中で最も愛されている作品の一つです。この作品は、鳥の劇場の創始者である中垣直久氏が、自身の体験をもとに創作された作品です。鳥の劇場の活動を通じて、子どもたちに「問いの力」を伝えることが、この作品の大きな目的です。

日本海新聞 2018年(平成30年)4月21日 土曜日

鳥取市鹿野町を拠点に活動するNPO法人・鳥の劇場は、2018年度最初の公演「イワンのばか」を28日から、同町鹿野の同劇場で上演する。同日のほか、29日と5月1~6日の計8回公演。

「イワンのばか」再上演へ
昨年鳥の劇場 28日から
好評

鳥取市鹿野町を拠点に活動するNPO法人・鳥の劇場は、2018年度最初の公演「イワンのばか」を28日から、同町鹿野の同劇場で上演する。同日のほか、29日と5月1~6日の計8回公演。

山陰中央新報新聞 2018年(平成30年)4月22日 日曜日

鳥の劇場がやって来る!鳥取県からやってくる!

鳥の劇場のこことや鳥取のこと、1月13日上演『どろぼうがっこう』のことなどを、見て・さわって・記念写真が撮れる特別展示を開催。実際の舞台衣装や小道具の展示、「どろぼうがっこう」と並んで鳥の劇場の子ども向け作品の代表作である『すてきな3にんぐみ』の舞台衣装の試着・記念撮影コーナーなど(※上演については活動報告4に記載)

12月5日(水)~2019年1月14日(月祝)
会場/あかがねミュージアムにはまギャラリー
1月13日(日)鳥の劇場カフェトーク「中島さん、鳥の劇場のこと、教えてください!」、おやこで楽しめる表現ワークショップ
会場/あかがねミュージアムCuカフェ

とうきょうの真ん中で「地方暮らし・子育て」を考える~とっとりの場合~じゆう劇場『「ロミオとジュリエット」から生れたもの-2018』上演、ドキュメンタリー映像作品『じゆう劇場の隣』上映、ミニ演劇『がまくんとかえるくん』上演、読み聞かせ、紙芝居など
2019年2月1日(金)・2日(土)・3日(日)
会場/東京芸術劇場シアターウエスト

鳥の劇場がやって来る!鳥取県からやってくる!

鳥の劇場のこことや鳥取のこと、1月13日上演『どろぼうがっこう』のことなどを、見て・さわって・記念写真が撮れる特別展示を開催。実際の舞台衣装や小道具の展示、「どろぼうがっこう」と並んで鳥の劇場の子ども向け作品の代表作である『すてきな3にんぐみ』の舞台衣装の試着・記念撮影コーナーなど(※上演については活動報告4に記載)

12月5日(水)~2019年1月14日(月祝)
会場/あかがねミュージアムにはまギャラリー
1月13日(日)鳥の劇場カフェトーク「中島さん、鳥の劇場のこと、教えてください!」、おやこで楽しめる表現ワークショップ
会場/あかがねミュージアムCuカフェ

とうきょうの真ん中で「地方暮らし・子育て」を考える~とっとりの場合~じゆう劇場『「ロミオとジュリエット」から生れたもの-2018』上演、ドキュメンタリー映像作品『じゆう劇場の隣』上映、ミニ演劇『がまくんとかえるくん』上演、読み聞かせ、紙芝居など
2019年2月1日(金)・2日(土)・3日(日)
会場/東京芸術劇場シアターウエスト

日本海新聞 2018年(平成30年)5月27日 日曜日

鳥取市鹿野町の5月の公演好評を第一弾として、鳥の劇場「イワンのばか」の再上演が決定した。鳥の劇場は、鳥の劇場の代表作品として、鳥の劇場の歴史の中で最も愛されている作品の一つです。この作品は、鳥の劇場の創始者である中垣直久氏が、自身の体験をもとに創作された作品です。鳥の劇場の活動を通じて、子どもたちに「問いの力」を伝えることが、この作品の大きな目的です。

「イワンのばか」あすから上演・鳥の劇場
児童を招待、演技披露

鳥の劇場「イワンのばか」は、鳥の劇場の代表作品として、鳥の劇場の歴史の中で最も愛されている作品の一つです。この作品は、鳥の劇場の創始者である中垣直久氏が、自身の体験をもとに創作された作品です。鳥の劇場の活動を通じて、子どもたちに「問いの力」を伝えることが、この作品の大きな目的です。

日本海新聞 2018年(平成30年)4月27日 金曜日

NCN 日本海ケーブルネットワーク
番組案内
☎0800-123-2255

小島の学校発表公演

鳥の劇場で小学1~4年生19人が「どろぼうがっこう」を上演。プロボノ向けの演技披露をご覧ください。

鳥の劇場で小学1~4年生19人が「どろぼうがっこう」を上演。プロボノ向けの演技披露をご覧ください。

日本海新聞 2018年(平成30年)5月20日 日曜日

鳥の劇場公演
2018年4月26日(木)~29日(日祝)
/5月1日(火)~6日(日)
会場:鳥の劇場

「イワンのばか」

鳥の劇場「イワンのばか」は、鳥の劇場の代表作品として、鳥の劇場の歴史の中で最も愛されている作品の一つです。この作品は、鳥の劇場の創始者である中垣直久氏が、自身の体験をもとに創作された作品です。鳥の劇場の活動を通じて、子どもたちに「問いの力」を伝えることが、この作品の大きな目的です。

日本海新聞 2018年(平成30年)4月22日 日曜日

「小さいサーカス「KNOT」―きずな」のワンシーン

鳥の劇場提供

「観劇や町歩き楽しんで」
無料バスも運行

9月6日から鳥の演劇祭11

山陰中央新報新聞 2018年(平成30年)8月31日 金曜日

演劇楽しむ工夫満載

鳥の劇場提供

「鳥の演劇祭11」鳥の劇場委員会主催が9月6日～9日、鳥取市鹿野町で開催される。入場料は無料。観劇だけでなく、町歩きも楽しむ工夫が満載。観劇や町歩きを楽しむための工夫が満載。観劇や町歩きを楽しむための工夫が満載。

鳥の演劇祭11 6日開幕

日本海新聞 2018年(平成30年)9月1日 土曜日

芸術がつなぐ鳥取と世界

「鳥の演劇祭」6日開幕

鳥の劇場提供

観劇や町歩き楽しんで、無料バスも運行。9月6日から鳥の演劇祭11。山陰中央新報新聞 2018年(平成30年)9月1日 土曜日

鹿野 多彩な催しも

多彩な催しも。観劇だけでなく、町歩きも楽しむ工夫が満載。観劇や町歩きを楽しむための工夫が満載。

日本海新聞 2018年(平成30年)9月1日 土曜日

鳥の演劇祭11

観劇や町歩き楽しんで、無料バスも運行。9月6日から鳥の演劇祭11。山陰中央新報新聞 2018年(平成30年)9月2日 日曜日

鳥の劇場提供

観劇や町歩き楽しんで、無料バスも運行。9月6日から鳥の演劇祭11。山陰中央新報新聞 2018年(平成30年)9月2日 日曜日

朝日新聞 2018年(平成30年)9月1日 土曜日

鳥の劇場提供

観劇や町歩き楽しんで、無料バスも運行。9月6日から鳥の演劇祭11。山陰中央新報新聞 2018年(平成30年)9月1日 土曜日

鳥の演劇祭11 6日開幕

鳥の劇場提供

観劇や町歩き楽しんで、無料バスも運行。9月6日から鳥の演劇祭11。山陰中央新報新聞 2018年(平成30年)9月1日 土曜日

地域全体 演劇ムードに

鳥取・鹿野町であすから。テーマハウスやカフェも登場。鳥の劇場提供

鳥の劇場提供

観劇や町歩き楽しんで、無料バスも運行。9月6日から鳥の演劇祭11。山陰中央新報新聞 2018年(平成30年)9月1日 土曜日

鳥の演劇祭11

観劇や町歩き楽しんで、無料バスも運行。9月6日から鳥の演劇祭11。山陰中央新報新聞 2018年(平成30年)9月2日 日曜日

鳥の劇場提供

観劇や町歩き楽しんで、無料バスも運行。9月6日から鳥の演劇祭11。山陰中央新報新聞 2018年(平成30年)9月2日 日曜日

鳥の演劇祭11

観劇や町歩き楽しんで、無料バスも運行。9月6日から鳥の演劇祭11。山陰中央新報新聞 2018年(平成30年)9月2日 日曜日

鳥の劇場提供

観劇や町歩き楽しんで、無料バスも運行。9月6日から鳥の演劇祭11。山陰中央新報新聞 2018年(平成30年)9月2日 日曜日

鳥の演劇祭11

観劇や町歩き楽しんで、無料バスも運行。9月6日から鳥の演劇祭11。山陰中央新報新聞 2018年(平成30年)9月2日 日曜日

鳥の劇場提供

観劇や町歩き楽しんで、無料バスも運行。9月6日から鳥の演劇祭11。山陰中央新報新聞 2018年(平成30年)9月2日 日曜日

鳥の演劇祭11

観劇や町歩き楽しんで、無料バスも運行。9月6日から鳥の演劇祭11。山陰中央新報新聞 2018年(平成30年)9月2日 日曜日

鳥の劇場提供

観劇や町歩き楽しんで、無料バスも運行。9月6日から鳥の演劇祭11。山陰中央新報新聞 2018年(平成30年)9月2日 日曜日

朝日新聞 2018年(平成30年)9月2日 日曜日

鳥の劇場提供

観劇や町歩き楽しんで、無料バスも運行。9月6日から鳥の演劇祭11。山陰中央新報新聞 2018年(平成30年)9月2日 日曜日

朝日新聞 2018年(平成30年)9月11日 火曜日

鳥の劇場提供

観劇や町歩き楽しんで、無料バスも運行。9月6日から鳥の演劇祭11。山陰中央新報新聞 2018年(平成30年)9月11日 火曜日

米国のTBTBが知事表敬 「鳥の演劇祭」に出演



鳥の劇場（鳥取市鹿野）は、活動内容や鳥取市野町鹿野で開催中の「鳥の演劇祭」に出演した米ニュージャージー州のTBTB（The Bird Theatre of Trenton）が、10月17日鳥取市を訪れ、知事表敬に参画した。TBTBは、鳥の演劇祭の制作・演出に携わっており、今年も「鳥の演劇祭」に出演する。TBTBの代表者は、知事表敬に参画し、鳥取市とニュージャージー州の友好関係の強化を期す。TBTBは、鳥の演劇祭の制作・演出に携わり、今年も「鳥の演劇祭」に出演する。TBTBの代表者は、知事表敬に参画し、鳥取市とニュージャージー州の友好関係の強化を期す。

鳥の劇場（鳥取市鹿野）は、活動内容や鳥取市野町鹿野で開催中の「鳥の演劇祭」に出演した米ニュージャージー州のTBTB（The Bird Theatre of Trenton）が、10月17日鳥取市を訪れ、知事表敬に参画した。TBTBは、鳥の演劇祭の制作・演出に携わっており、今年も「鳥の演劇祭」に出演する。TBTBの代表者は、知事表敬に参画し、鳥取市とニュージャージー州の友好関係の強化を期す。

日本海新聞 2018年(平成30年)9月13日 木曜日

週末、舞台ファンどっと鹿野 11回目迎えた「鳥の演劇祭」



鳥取市鹿野の町下町エリアは、週末になると、開演中「鳥の演劇祭」の舞台ファンで賑わう。今年も「鳥の演劇祭」が11回目を迎え、多くのファンが来場している。鳥の演劇祭は、鳥取市とニュージャージー州の友好関係を促進し、文化交流の場を提供している。今年も「鳥の演劇祭」が11回目を迎え、多くのファンが来場している。鳥の演劇祭は、鳥取市とニュージャージー州の友好関係を促進し、文化交流の場を提供している。

日本海新聞 2018年(平成30年)9月13日 木曜日

思い思いに街歩きを

鹿野で「週末だけのまちなみせ」開店
飲食、雑貨…個性豊かに74店舗

週末だけのまちなみせは、鹿野の魅力を伝えるための取り組み。74の個性豊かな店舗が並び、飲食、雑貨、アートなど様々な商品が揃っている。この取り組みは、鹿野の活性化と観光促進に大きく貢献している。

日本海新聞 2018年(平成30年)9月15日 土曜日

分断を乗り越える 鹿野・鳥の演劇祭11 じゆう劇場公演あすから



鳥の演劇祭11の「鳥の演劇祭」は、今年も「鳥の演劇祭」に出演する。TBTBの代表者は、知事表敬に参画し、鳥取市とニュージャージー州の友好関係の強化を期す。TBTBは、鳥の演劇祭の制作・演出に携わり、今年も「鳥の演劇祭」に出演する。TBTBの代表者は、知事表敬に参画し、鳥取市とニュージャージー州の友好関係の強化を期す。

日本海新聞 2018年(平成30年)9月14日 金曜日

町並みに合う 「鳥の演劇祭」11 鹿野・鳥の演劇祭11



鳥の演劇祭11の「鳥の演劇祭」は、今年も「鳥の演劇祭」に出演する。TBTBの代表者は、知事表敬に参画し、鳥取市とニュージャージー州の友好関係の強化を期す。TBTBは、鳥の演劇祭の制作・演出に携わり、今年も「鳥の演劇祭」に出演する。TBTBの代表者は、知事表敬に参画し、鳥取市とニュージャージー州の友好関係の強化を期す。

日本海新聞 2018年(平成30年)9月23日 日曜日

文化 鳥の演劇祭11

人との出会いの喜びを



鳥の演劇祭11の「鳥の演劇祭」は、今年も「鳥の演劇祭」に出演する。TBTBの代表者は、知事表敬に参画し、鳥取市とニュージャージー州の友好関係の強化を期す。TBTBは、鳥の演劇祭の制作・演出に携わり、今年も「鳥の演劇祭」に出演する。TBTBの代表者は、知事表敬に参画し、鳥取市とニュージャージー州の友好関係の強化を期す。

日本海新聞 2018年(平成30年)9月18日 火曜日

万葉集を現代的な歌集にした家持

因幡万葉の世界

鳥の演劇祭11の「鳥の演劇祭」は、今年も「鳥の演劇祭」に出演する。TBTBの代表者は、知事表敬に参画し、鳥取市とニュージャージー州の友好関係の強化を期す。TBTBは、鳥の演劇祭の制作・演出に携わり、今年も「鳥の演劇祭」に出演する。TBTBの代表者は、知事表敬に参画し、鳥取市とニュージャージー州の友好関係の強化を期す。

有終の美飾る舞台に 10日本番、3年生一丸



鳥の演劇祭11の「鳥の演劇祭」は、今年も「鳥の演劇祭」に出演する。TBTBの代表者は、知事表敬に参画し、鳥取市とニュージャージー州の友好関係の強化を期す。TBTBは、鳥の演劇祭の制作・演出に携わり、今年も「鳥の演劇祭」に出演する。TBTBの代表者は、知事表敬に参画し、鳥取市とニュージャージー州の友好関係の強化を期す。

日本海新聞 2018年(平成30年)11月6日 火曜日

若手が上演や発表 鳥の劇場育成企画、あす



鳥の演劇祭11の「鳥の演劇祭」は、今年も「鳥の演劇祭」に出演する。TBTBの代表者は、知事表敬に参画し、鳥取市とニュージャージー州の友好関係の強化を期す。TBTBは、鳥の演劇祭の制作・演出に携わり、今年も「鳥の演劇祭」に出演する。TBTBの代表者は、知事表敬に参画し、鳥取市とニュージャージー州の友好関係の強化を期す。

日本海新聞 2018年(平成30年)12月1日 土曜日

若手演劇人 広がれ才能

鹿野で活動劇団・鳥の劇場が育成研修



鳥の演劇祭11の「鳥の演劇祭」は、今年も「鳥の演劇祭」に出演する。TBTBの代表者は、知事表敬に参画し、鳥取市とニュージャージー州の友好関係の強化を期す。TBTBは、鳥の演劇祭の制作・演出に携わり、今年も「鳥の演劇祭」に出演する。TBTBの代表者は、知事表敬に参画し、鳥取市とニュージャージー州の友好関係の強化を期す。

朝日新聞 2018年(平成30年)12月1日 土曜日

鳥の劇場 韓国・大学の演劇院と協定

「アジアの若手育成、つなぐ」

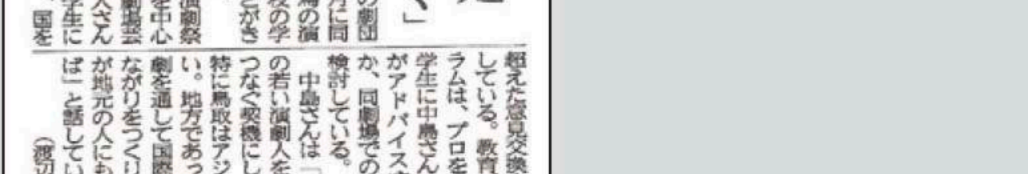


鳥の演劇祭11の「鳥の演劇祭」は、今年も「鳥の演劇祭」に出演する。TBTBの代表者は、知事表敬に参画し、鳥取市とニュージャージー州の友好関係の強化を期す。TBTBは、鳥の演劇祭の制作・演出に携わり、今年も「鳥の演劇祭」に出演する。TBTBの代表者は、知事表敬に参画し、鳥取市とニュージャージー州の友好関係の強化を期す。

朝日新聞 2019年(平成31年)1月1日 火曜日

鳥の劇場 韓国・大学の演劇院と協定

「アジアの若手育成、つなぐ」



鳥の演劇祭11の「鳥の演劇祭」は、今年も「鳥の演劇祭」に出演する。TBTBの代表者は、知事表敬に参画し、鳥取市とニュージャージー州の友好関係の強化を期す。TBTBは、鳥の演劇祭の制作・演出に携わり、今年も「鳥の演劇祭」に出演する。TBTBの代表者は、知事表敬に参画し、鳥取市とニュージャージー州の友好関係の強化を期す。

日本海新聞 2018年(平成30年)12月7日 金曜日

俳優の演技に酷似している書道の営み

関

鳥取市立芸術センター 鳥取書道代表十人展

鳥取市立芸術センターは、鳥取市立芸術センター書道部が主催する「鳥取書道代表十人展」を開催する。この展覧会は、鳥取市立芸術センター書道部のメンバーが、書道を通じて表現した作品を展示する。展覧会は、鳥取市立芸術センターの書道部員が、書道を通じて表現した作品を展示する。展覧会は、鳥取市立芸術センターの書道部員が、書道を通じて表現した作品を展示する。

鳥取市立芸術センター 鳥取書道代表十人展

鳥取市立芸術センター 鳥取書道代表十人展

鳥取市立芸術センター 鳥取書道代表十人展

日本海新聞 2019年(平成31年)1月5日 土曜日

演劇通じ共生社会発信

じゆう劇場が高知初公演

「ロミオとジュリエット」から生まれたもの

鳥取市立芸術センター 鳥取書道代表十人展

鳥取市立芸術センター 鳥取書道代表十人展

鳥取市立芸術センター 鳥取書道代表十人展

高知新聞 2019年(平成31年)1月21日 月曜日

鳥の劇場2018年度プログラム

◆創るプログラム>三島由紀夫「近代能楽集」より『葵上』『班女』『綾の鼓』

今回は三島作品。『近代能楽集』は能の謡曲を題材に三島がそれぞれの主題を発展させて現代劇とした小品の戯曲集。今まで好評だった2作品に『班女』『綾の鼓』を加えて、4作品を2週にわたり、連続上演する。22~24日、3月1~3日、鳥取市鹿野町の鳥の劇場で。問い合わせは0857・84・3268へ。

公明新聞 2019年(平成31年) 2月8日 金曜日

奇異な感覚世界をリアルな緊迫感で

鳥の劇場公演「三島由紀夫『近代能楽集』より 葵上/班女/熊野/綾の鼓」

鳥の劇場公演「三島由紀夫『近代能楽集』より 葵上/班女/熊野/綾の鼓」

鳥の劇場公演「三島由紀夫『近代能楽集』より 葵上/班女/熊野/綾の鼓」

日本海新聞 2019年(平成31年) 2月10日 日曜日

地域の劇場をたぐいで

演劇人 鳥取ではばたく

鳥取市立芸術センター 鳥取書道代表十人展

鳥取市立芸術センター 鳥取書道代表十人展

鳥取市立芸術センター 鳥取書道代表十人展

朝日新聞 2019年(平成31年)1月28日 月曜日

鳥の劇場 葵上班女 熊野綾の鼓

鳥の劇場 葵上班女 熊野綾の鼓

鳥の劇場 葵上班女 熊野綾の鼓

朝日新聞 2019年(平成31年)2月16日 土曜日

鳥の劇場 葵上班女 熊野綾の鼓

鳥の劇場 葵上班女 熊野綾の鼓

鳥の劇場 葵上班女 熊野綾の鼓

日本海新聞 2019年(平成31年)2月16日 土曜日

三島由紀夫戯曲集

鳥の劇場 葵上班女 熊野綾の鼓

鳥の劇場 葵上班女 熊野綾の鼓

読賣新聞 2019年(平成31年)2月17日 日曜日

鳥の劇場・三島由紀夫戯曲4作 きょうから上演

鳥の劇場 葵上班女 熊野綾の鼓

鳥の劇場 葵上班女 熊野綾の鼓

日本海新聞 2019年(平成31年)2月22日 金曜日

じゆう劇場の試み

じゆう劇場は、障害のある人となないかにいっしょに演劇を作る。この試みは、鳥取市立芸術センターが主催する「鳥取書道代表十人展」の一環として行われる。この試みは、鳥取市立芸術センターが主催する「鳥取書道代表十人展」の一環として行われる。

じゆう劇場は、障害のある人となないかにいっしょに演劇を作る。この試みは、鳥取市立芸術センターが主催する「鳥取書道代表十人展」の一環として行われる。この試みは、鳥取市立芸術センターが主催する「鳥取書道代表十人展」の一環として行われる。

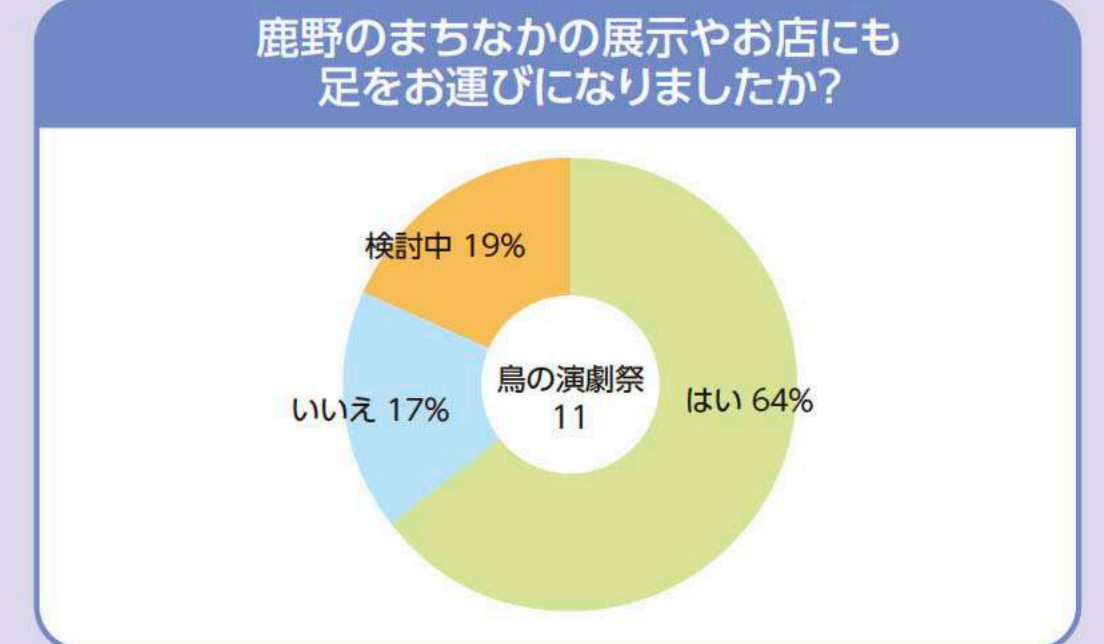
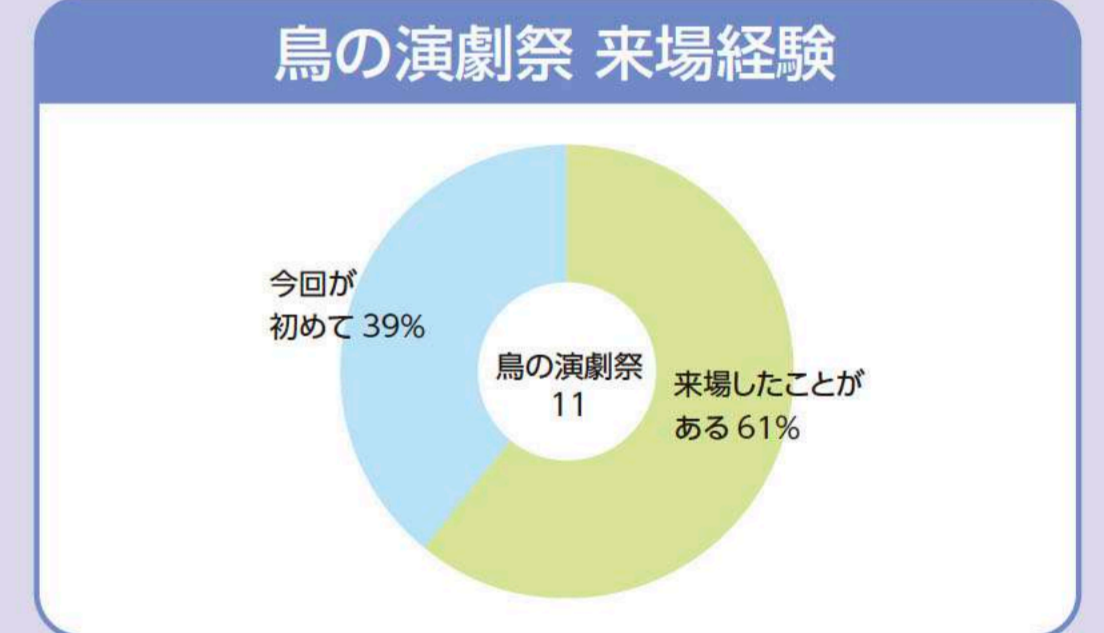
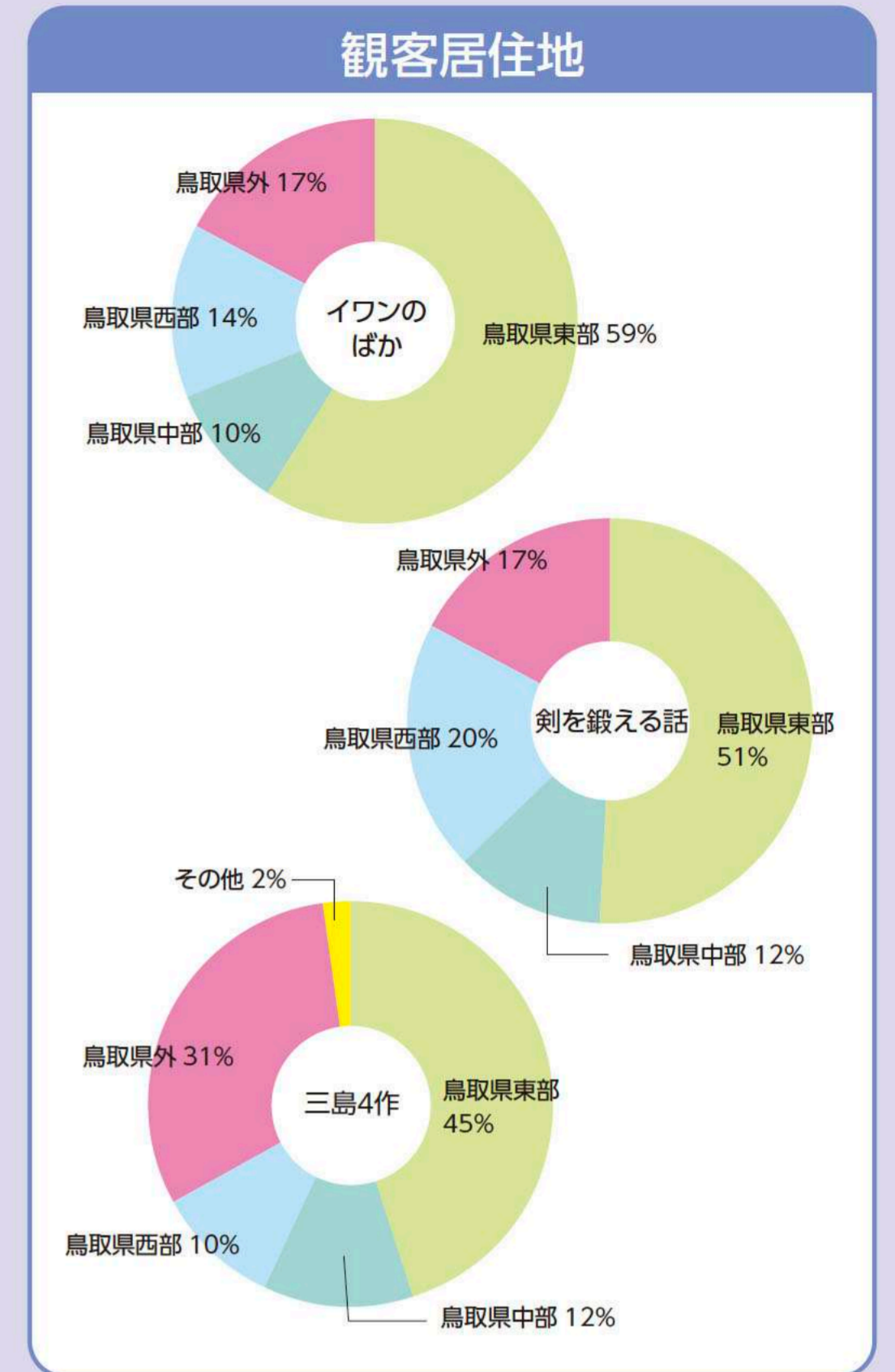
公明新聞 2019年(平成31年)3月22日 金曜日

【資料1】鳥の劇場 2018年度プログラム 観客アンケート集計結果

	創るプログラム				若手演劇人の成長サポート	
	「イワンのばか」		三島由紀夫「近代能楽集」より4作まとめて上演! 「班女」「葵上」「熊野」「綾の鼓」		若手演劇人の作品向上、社会との関係づくり支援事業 「呉將軍の足の爪」	
観客総数	1,323		962		72	
アンケート数	442		346		25	
アンケート回収率		33.4%		36.0%		34.7%
この公演をどうやってお知らせになりましたか?(複数回答可)	435		341		24	
鳥の劇場からの案内	152	28.5%	203	44.2%	23	76.7%
鳥の劇場からの郵便	97	71.3%	148	70.5%	17	77.3%
鳥の劇場からのメール	31	22.8%	54	25.7%	4	18.2%
鳥の劇場で	8	5.9%	8	3.8%	1	4.5%
チラシ・ポスター	232	43.4%	140	30.5%	3	10.0%
街なか	183	55.5%	52	39.7%	1	33.3%
駅	10	3.0%	8	6.1%	0	0.0%
列車内	1	0.3%	2	1.5%	0	0.0%
学校	95	28.8%	6	4.6%	1	33.3%
他の施設(劇場など)	25	7.6%	33	25.2%	1	33.3%
他団体の公演	6	1.8%	16	12.2%	0	0.0%
その他	10	3.0%	14	10.7%	0	0.0%
各種メディア	68	12.7%	79	17.2%	4	13.3%
WEBサイト	19	27.5%	19	22.6%	0	0.0%
SNS(Twitter・Facebook)	10	14.5%	28	33.3%	1	25.0%
新聞	34	49.3%	35	41.7%	3	75.0%
雑誌	1	1.4%	1	1.2%	0	0.0%
ラジオ(トリラジ!)	5	7.2%	1	1.2%	0	0.0%
その他	82	15.4%	37	8.1%	0	0.0%
公演を知ったきっかけ(記述回答)	鳥の劇場の看板、案内板、大学の講義、知人、友人、職場の知り合い、家族、劇団員から、口コミ		パープルタウン、コンビニ、知人、友人、家族、演者より			
現在のお住まいはどちらですか?	439		339		25	
鹿野町内	26	5.9%	17	5.0%	1	4.0%
鳥取市内(鹿野町以外)	208	47.4%	130	38.3%	14	56.0%
鳥取県内(鳥取市以外)	131	29.8%	82	24.2%	8	32.0%
鳥取県外	74	16.9%	103	30.4%	2	8.0%
その他	0	0.0%	7	2.1%	0	0.0%
県内外訳	岡山17、兵庫16、島根14、大阪5、山口4、東京3、千葉3、愛知3、埼玉2、滋賀2、福岡1、広島1、岐阜1、群馬1、神奈川1		岡山24、兵庫14、島根13、福岡7、愛知6、東京6、愛媛4、高知4、広島3、京都3、熊本3、大阪3、千葉2、奈良1、神奈川1、山梨1、茨城1、県名記載無し7		兵庫1、東京1	
性別	438		339		25	
女性	296	67.6%	193	56.9%	15	60.0%
男性	140	32.0%	146	43.1%	10	40.0%
その他	2	0.5%	0	0.0%	0	0.0%
年齢	437		339		25	
10歳未満	23	5.3%	0	0.0%	0	0.0%
10代	62	14.2%	6	1.8%	4	16.0%
20代	49	11.2%	32	9.4%	2	8.0%
30代	49	11.2%	35	10.3%	1	4.0%
40代	89	20.4%	39	11.5%	2	8.0%
50代	63	14.4%	84	24.8%	6	24.0%
60代	74	16.9%	106	31.3%	5	20.0%
70代	19	4.3%	25	7.4%	4	16.0%
80歳以上	9	2.1%	12	3.5%	1	4.0%
鳥の劇場にはどれくらい来場されますか?	439		341		25	
来場したことがある	245	55.8%	250	73.3%	23	92.0%
今回が初めて	194	44.2%	91	26.7%	2	8.0%
前回来場されたのはいつごろですか?	235		232		22	
半年以内	101	43.0%	113	48.7%	13	59.1%
一年以上以内	53	22.6%	75	32.3%	7	31.8%
一年以上前	81	34.5%	44	19.0%	2	9.1%
年にどれくらい来場されますか?	190		217		21	
1回	70	36.8%	39	18.0%	4	19.0%
2~3回	83	43.7%	112	51.6%	11	52.4%
4回以上	23	12.1%	56	25.8%	5	23.8%
その他	14	7.4%	10	4.6%	1	4.8%

※「アンケート数」と「総回答数」の誤差は、感想のみ記載の回答があるためです。

	いっしょにやるプログラム		試みるプログラム	
	子どものための小鳥の学校 発表公演 「人間×鬼×偏見=?」		高校演劇もっと盛り上げ事業 つくる高校生発表公演 「マクベス」	
	378		98	
	81		43	
		21.4%		43.9%
	77		43	
	35	38.0%	20	35.7%
	20	60.6%	7	38.9%
	7	21.2%	5	27.8%
	6	18.2%	6	33.3%
	22	23.9%	13	23.2%
	3	16.7%	7	43.8%
	0	0.0%	3	18.8%
	0	0.0%	0	0.0%
	11	61.1%	3	18.8%
	2	11.1%	1	6.3%
	1	5.6%	1	6.3%
	1	5.6%	1	6.3%
	9	9.8%	5	8.9%
	1	12.5%	1	16.7%
	5	62.5%	5	83.3%
	1	12.5%	0	0.0%
	1	12.5%	0	0.0%
	0	0.0%	0	0.0%
	26	28.3%	18	32.1%
	友人、家族、子どもが出演、実家で		戯曲講座で、知人、友人、家族、子どもが出演、劇団員から	
	79		43	
	1	1.3%	2	4.7%
	34	43.0%	19	44.2%
	35	44.3%	15	34.9%
	9	11.4%	7	16.3%
	0	0.0%	0	0.0%
	兵庫3、岡山1、広島1、東京1、県名記載無し3		岡山2、島根1、兵庫1、富山1	
	80		42	
	49	61.3%	26	61.9%
	31	38.8%	16	38.1%
	0	0.0%	0	0.0%
	79		43	
	7	8.9%	1	2.3%
	12	15.2%	16	37.2%
	3	3.8%	2	4.7%
	2	2.5%	4	9.3%
	29	36.7%	9	20.9%
	6	7.6%	7	16.3%
	9	11.4%	3	7.0%
	11	13.9%	1	2.3%
	0	0.0%	0	0.0%
	80		43	
	62	77.5%	33	76.7%
	18	22.5%	10	23.3%
	59		29	
	18	30.5%	24	82.8%
	30	50.8%	4	13.8%
	11	18.6%	1	3.4%
	52		26	
	20	38.5%	5	19.2%
	21	40.4%	10	38.5%
	8	15.4%	10	38.5%
	3	5.8%	1	3.8%



【資料2】鳥の劇場 2018年度収支決算

■収入の部

単位：円／％

科目	2018年度		2017年度		比較 (a)-(b)
	決算額(a)	構成比	決算額(b)	構成比	
チケット収入・受講料	4,550,500	4.8%	3,912,500	4.3%	638,000
外部上演料・講師料・出演料等	3,444,655	3.7%	11,645,382	12.8%	△ 8,200,727
受託費	37,401,800	39.9%	25,772,500	28.3%	11,629,300
鳥カフェ・物販売上	532,284	0.6%	1,066,164	1.2%	△ 533,880
雑収入	1,898,484	2.0%	1,569,242	1.7%	329,242
寄付金(サポーター) ※1	3,685,000	3.9%	2,920,000	3.2%	765,000
寄付金(企業協賛ほか)、受取会費	90,000	0.1%	4,000	0.0%	86,000
助成金・補助金	42,226,575	45.0%	44,243,893	48.5%	△ 2,017,318
合計(A)	93,829,298	100.0%	91,133,681	100.0%	2,695,617

※1 2017年度:214人/584口、2018年度:266人/737口、(人数には団体や法人を含む)
2017、2018年度ともに、公益社団法人企業メセナ協議会の助成認定制度を活用した寄付金含む
(2017年度:100,000円)(2018年度「近代能楽集」公演に対して:495,000円)

■支出の部

単位：円／％

科目	2018年度		2017年度		比較 (a)-(b)	
	決算額(a)	構成比	決算額(b)	構成比		
事業費	メンバー人件費	36,847,708	38.7%	34,899,268	35.3%	1,948,440
	その他	40,698,775	42.7%	46,898,109	47.4%	△ 6,199,334
管理費・その他	17,782,899	18.7%	17,125,375	17.3%	657,524	
合計(B)	95,329,382	100.0%	98,922,752	100.0%	△ 3,593,370	

収支差額(A)-(B)	△ 1,500,084		△ 7,789,071		
-------------	-------------	--	-------------	--	--

■助成金・補助金内訳

単位：円／％

科目	2018年度		2017年度		比較 (a)-(b)
	決算額(a)	構成比	決算額(b)	構成比	
ごうぎん鳥取文化振興財団	100,000	0.24%	100,000	0.23%	0
文化庁 *1	27,690,575	65.58%	28,631,893	64.71%	△ 941,318
鳥取県 *2	0	0.00%	1,000,000	2.26%	△ 1,000,000
鳥取県 *3	13,613,000	32.24%	14,315,000	32.35%	△ 702,000
山陰・夢みなと博覧会記念基金 *4	823,000	1.95%	197,000	0.45%	626,000
合計	42,226,575	100.00%	44,243,893	100.00%	△ 2,017,318

*1 「平成31年度文化芸術振興費補助金」劇場・音楽堂等機能強化推進事業
*2 鳥取県震災復興活動特別支援事業補助金
*3 文化芸術地域モデル全国発信事業補助金
*4 国際航空便利用促進費(定期便)(日韓高校生交流キャンプ 安山)

■鳥の劇場運営委員会への補助金

◎「鳥の演劇祭11」・表現WS「トリジユク」・鳥の演劇祭拡充事業「フリンジ・プログラム」・
とっとり文化魅力体験メニュー支援事業「まちなか賑わい創造」
鳥取県「鳥の劇場運営委員会補助金」 37,407,000円
※文化庁「文化芸術創造拠点形成事業」からの補助金を含む
鳥取市「鳥取市文化芸術事業に関する補助金」 1,000,000円

◎「じゆう劇場」
鳥取県「鳥取県障がい者と健常者がともに作る芸術事業補助金」 22,479,036円
※文化庁「文化芸術創造拠点形成事業」からの補助金を含む

